



夢ある未来へ

短歌を
作ってわかった
竹田の魅力

文化は人を呼ぶ

「荒城の月短歌大会」が大成功！



↑昨年を大きく上回る応募があった「第4回荒城の月短歌大会」の入賞者のみなさん

なぜ竹田で、短歌大会なのか

文化人を生み、集うまち

多感な青年時代を竹田市で過ごした作曲家・瀧廉太郎。彼が足しげく通っていたとされる岡城址をはじめ、このまちで見た、感じた音風景が、名曲『荒城の月』誕生に大きな影響を与えたことは想像に難くありません。また、南画家の巨匠・田能村竹田や、朝倉文夫、佐藤義美といった竹田市ゆかりの偉人たちだけでなく、竹田市を訪れた与謝野晶子・鉄幹ら、日本を代表する歌人・文豪たちの感性に影響を与えたまち、それが竹田市なのです。

そうした豊かな歴史文化の土壌があるこの地を、伝統を守るだけでなく、内側から甦らせながら今を生きる詩歌で溢れ

るまちとして後世につないでいくことを目指し、『荒城の月短歌大会』は産声をあげました。この壮大なスケール感の、竹田市でしか成り立たないであろう短歌大会も、今年で4回目を迎えています。

3月7日、竹田市総合社会福祉センター多目的ホールにて、『第4回荒城の月短歌大会』が開催されました。この日は、事前に募集した短歌作品の中から、入選された方々への表彰と、選者の川野里子先生による講評、特別講演会が行われ、市内外、遠くは東京、千葉、静岡、愛媛からもご参加いただきました。選者で歌人の川野先生は竹田市出身。この短歌大会では第1回から選者をお受けいただいております。選者という枠を超えて、大会を監修してくださっています。

作品募集も全国区、世界規模の大会に成長。昨年を大きく上回る1336首のご応募をいただきました。アメリカのワシントン日本語学校からのご応募もあり、外国に住む子どもたちも日本独特の定型詩である『短歌』づくりにチャレンジ。指導をされた先生からは、「実は、海外生活が長い児童はもとより、日本から来たばかりの児童も、『荒城の月』を聞いたことがないと



↑「荒城の月短歌大会」の選者、竹田市出身の歌人・川野里子先生



↑竹田市東京オフィスで開催された『こころの里山東京教室 連続短歌講座』



↑『こころの里山東京教室』の受講生のみなさんが「修学旅行」と称して来竹。市内の名所地をまわり、竹田ツアーを満喫しました。受講生のひとり、自由題・一般の部で最優秀賞に輝いた藤原敏宏さんは「すっかり竹田のファンになってしまいました。今後も短歌を続けて応募したい。東京に帰って、竹田を宣伝します!」と話してくれました



↑題詠「月」・一般の部で最優秀賞に輝いた大庭拓郎さん(静岡県)

いうので驚きました。ちよつと歌って聞かせたりして、日本の唱歌を紹介するよい機会ともなりました」とのエピソードが届いています。この大会を通じて『荒城の月』が海を越え世界へ届いていく、そんなストーリーへと成長しています。

短歌は、都市と里山をつなぐ

東京からの情報発信に効果

ところ変わったって東京赤坂。ここに平成25年10月にオープンした竹田市東京オフィスがあります。このオフィスを活用して、都市と竹田市をつなぐ交流や情報発信をはじめようと、川野里子先生による『こころの里山東京教室 連続短歌講座』が開校されました。平成26年4月から翌年3月まで全12回で、関東在住の短歌を趣味にしている方々が参加していました。毎月、竹田市の何気ない風景を綴った「こころの里山ニュースレター」を読んで、竹田への憧れを募ら

「文化が土に埋め込んであるような竹田でした」

楽しもう「短歌づくり」

ケーブルテレビで近日公開

せていた参加者のうち8名が、『荒城の月短歌大会』にあわせ、修学旅行と銘打って竹田市を訪問。廉太郎ゆかりの地である岡城趾やキリシタンツアー、名水石橋を巡るツアーなどに参加し、憧れの地・竹田市を満喫しました。この修学旅行の参加者で、今回の短歌大会に佳作入選した千葉県・谷川保子さんからは、「文化が土に埋め込んであるような竹田でした。あんなところで育った人たちに、東京の人が敵うわけがないですよ。でも今日は東京がいつもよりきれいに思えました」との感想が川野先生に届いたそうです。自分以外の誰かの眼を通して見つめることで、いつもの景色も新鮮な驚きに溢れます。短歌もきつと、その方法のひとつではないでしょうか。谷川さんをはじめ、都市部で生活する方々の視点は、竹田市民がふるさとを見直すきっかけを授けてくれているのかもしれない。

今回の『荒城の月短歌大会』青少年の部では、冬休みの宿題として取り組んだ市内小中学校の生徒さんも多く、フレッシュな作品が数多く届きました。しかし、初めて短歌に触れる生徒さんも多かっただろうということで、今後の作品づくりのヒントにしておらうと、「青少年向けの短歌づくり講座をケーブルテレビで収録しました。3回シリーズで4月以降の放送予定です。選者の川野先生から、『短歌を楽しもう』という視点で、分かりやすく短歌づくりの基礎を教えていただいています。子どもだけでなく、大人、特に初心者の方も楽しめる内容になっていますので、是非ご覧ください。来年度の大会でも、多くの竹田市民のご応募をお待ちしています!

学校の統廃合をどう考えるか

国は行財政改革の観点や地方財政の貧困化から、統廃合を推進する方向を打ち出してきたが、ここに来て、「学校が地域に与える影響」を注視し始めた。つまり、地域から学校がなくなると、地域の存続そのものが危うくなる

と懸念し始めているのである。廃校が存続か、その選択は地域が決定するべきである。とするならば、なおさらに私たちの主体性、つまり行政と地域、学校関係者との合意形成が大切である。

ここでは、多くの市民が関心を寄せている『学校の統廃合』の方向性について首藤勝次市長にインタビューした。

経費の効率化を考えれば統廃合

河野光雄学校教育課長(以下河野) よ

ろしくお願ひします。まず、現実的な話をすると、全校の児童数が30人を切るような超小規模校だと学校運営の経費が非効率的であるのは事実です。たとえば、学校の教員の人件費は、国と県が負担しているところですが、全校の児童生徒数が30人でも100人でも必要な教師の数はあまり変わらない。3つの学校を統合しても100人に満たないならば、それを1つの学校にしたら教師の数を3分の1にすることができる。校長も教頭も1人でいいし、その他の教員数も1つの学校の教員数で足りるということになる。随分と経費の削減になる。この現実に対し

て、どう思われていますか。

市長 経費の効率化という視点で判断すると、ご指摘のとおりですね。校舎やプールにしても、このままだと耐震や修繕をしなければならない。廃校にしたら耐震も修繕も必要ないのだから、余分な経費を持ち出すこともない。

統廃合により、学校がなくなる子どもたちは統合する学校にスクールバスで通学すればよいので、思ったより不安は感じないだろうという声も多い。

おまけに、1学年3、4人程度しかないクラスがほとんどで、中には児童が1人の学年もあるとなれば、「仲間がいなくて寂しい上に、勉強も複式学級となって理想的な授業を受けるこ

とができない」と心配する保護者も少なくない。

河野 ならば、やはり早急に統廃合を積極的に考えるべき、ということでしょうか。

市長 ただ、その一方で、「子どもたちが少ないからといって、子どもたちが不幸だということにはならない」「先生たちの見守りも厚く、全校の児童が兄弟のように仲良く遊べるし、学ぶこともできる」と小規模校を歓迎する保護者も少なくない。つまり、統廃合について賛否両論というのが実態だと私は捉えています。

ここで大切なのは、国から指摘されるまでもなく、その地域の人たちがど



↑首藤市長に『学校の統廃合』について、方向性を聞く河野学校教育課長

う考えているかが大切だと思います。城原地区での意見交換会では自治会長さんをはじめ地域づくりに熱心な人たちが参加してくれたわけですが、大方の意見は「地域から学校がなくなることの影響は想像以上に大きい。運動会も地域ぐるみで盛り上げているし、地域コミュニティの拠点として学校の存在価値はすごく高い」というものでしたね。

河野 確かに城原地区でも宮城地区でも地域と学校は密接に支え合っていますよね。

市長 運動会などでも、みんなが学校を地域のコミュニティの拠点だと考えているのがよくわかります。それに

学校があるから移住した。定住した。

安直な統廃合の前に打つ手があるか？

改めて気付かされたのは、保護者からの声にありました。つまり、学校があったからこのふるさとに帰ってきたとか、学校のある地域だったから移住してきたというものでした。

河野 そうでしたね。あの若い人たちは、移住したりUターンする動機として、その地域に学校があったからだと言っていましたね。

市長 ということは、学校がなくなれば、移住者もUターンする人たちも期待できなくなるということです。これは貴重な声でした。地域から学校がなくなると急速に活力が落ちるといわれるのは、こんなところにも原因があったのです。



↑学校統廃合と地域振興意見交換会(城原地区)



↑『ニュータウン構想』として、宅地造成の進むT S G竹田総合学院前(旧竹田中学校校庭)

河野 難しい課題ですが、結論的にど

うすればいいのでしょうか。

市長 基本的には、何もしなければ統廃合やむなし、ということでしょう。

しかし、これ以上地域の衰退に拍車をかけるわけにはいかない。何とか努力して地域再生を図らねばと思っただけで、それが私の使命でもありますから。と言って、思うだけでは実態は改善されない。そこで打ち出したのが農村回帰の政策なんです。

河野 地域によつては、この運動の成果があらわれて複式学級が解消されたケースもありましたね。

市長 意外と若い世代の移住・定住が進んでいるのです。住環境が整えば竹田市に移住したいと考えている人が700人もいるんですよ。

河野 そんなにいますか。

市長 でも、空き家ばかりでは受け皿にはなれない。だからニュータウン構想を掲げて宅地造成を手掛けることにしたんです。大切なのは、企業誘致や地場産業の振興、そして農村回帰などの政策を懸命に展開してみること。少なくともあと5年くらいはしっかり取り組んでいくべきだと思います。そう

すれば必ず展望は開けると思っています。そして、万が一、社会の潮流が農村の価値を見いだせないとなれば、その時は思い切つて経済最優先の方針に切り替える。つまり、学校の統廃合ということですね。

河野 城原地区の皆さんも市長の考えに同調されていましたね。

市長 保護者の皆さんも地域の方々も、安直に統廃合で押し切るのではなくて、精一杯に再生の道に取り組んで、それでもだめだったら仕方ないということでご理解いただいたと思います。そして、もうひとつ確認したことがあります。それは、今の校舎やプールを耐震強化させるのは、学校存続を視野に入れていることではありますが、もし廃校になっても、そのあとの利活用を構想に描いておくこと。これが大切だと申し上げました。心情的な存続論では、後世に経済的負担をかけます。もし廃校になつても、地区公民館やIT企業の拠点とすることや、ゲストハウスやシェアハウスなどに活用して地域振興の新しい役割を持たせるといふ発想が必要だということです。

河野 なるほど。旧下竹田小学校や旧竹田中学校の再生はみごとに成功していますからね。それに今、城下町の再

生を含めて、市政の重点である農村回帰運動にも成果が見られています。まちが活力を帯びて動き始めていると感じている人は多いと思います。

市長 みんなで蒔いた種、そして先人たちが蒔いた種が芽を出し、花をつけようとしています。教育現場においても、『教育のまちTOPSUN3運動』や東大との協同研究に効果が上がり、全国学力テストにおいて竹田市内の小学校、中学校の児童生徒の成績は県下のトップレベルに向上していますからね。

河野 竹田市は教育のまちだというイメージが定着してきますと、竹田市の移住・定住が注目されることになります。ニュータウン構想などにも弾みがつきますね。

市長 合併をした新生・竹田市の可能性は本当に大きい。全国から移住・定住のモデルとして注目を集めつつある。これからの正念場です。みんなで一致協力して『人の集まるまちづくり』を実現しましょう。子どもたちの数が増えれば学校も地域もよみがえるのですから。

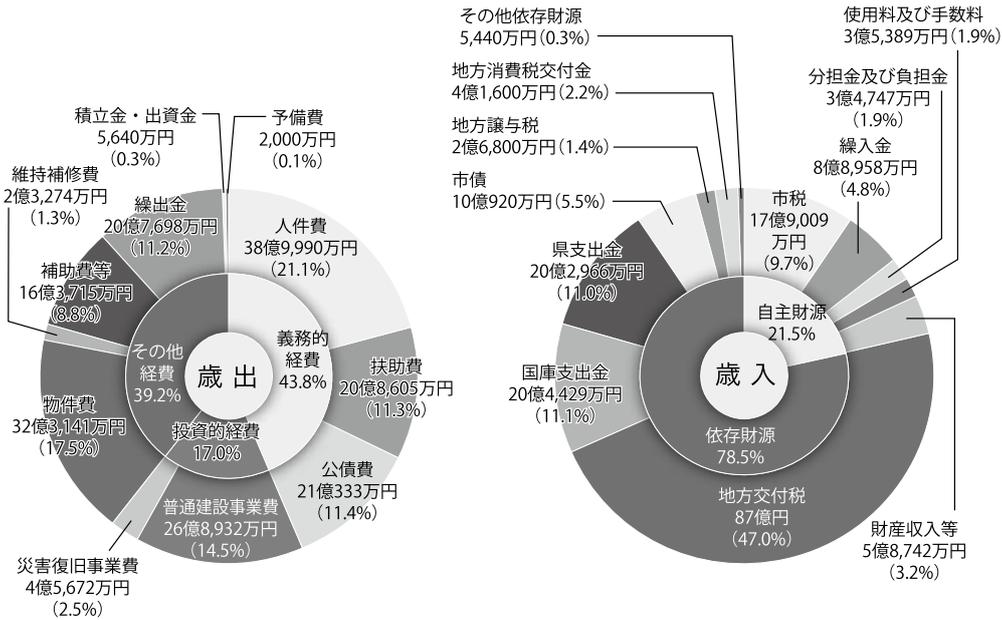
河野 そうですね。教育現場も頑張ります。今日はありがとうございました。

心情的な存続論では、

後世に負担を残す。多様な政策展開こそ挑戦者のあるべき姿。

一般会計 予算総額 184億9,000万円

竹田市は、本年度も引き続き歴史文化や地域資源を活かした先導的で独自色豊かな政策展開「TOP運動」によって、基礎自治体の自立を目指します。地域コミュニティの再生を図り、行政と市民が協働した『市民が主役』のまちづくりを進める平成27年度当初予算、その一端をお伝えします。



■歳出(目的別)

議会費	1億9,710万円	議員報酬など議会の運営に要する経費
総務費	25億2,427万円	職員や各種委員の人件費など管理事務に要する経費
民生費	53億1,948万円	医療費の助成など社会福祉向上に要する経費
衛生費	9億9,184万円	保健活動やごみ・し尿処理などに要する経費
労働費	5,955万円	雇用対策などに要する経費
農林水産業費	25億2,875万円	ほ場整備など農業や林業の振興に要する経費
商工費	4億8,695万円	商工・観光の振興などに要する経費
土木費	10億7,945万円	道路や河川、市営住宅の整備などに要する経費
消防費	7億4,368万円	消防団の運営費などの消防活動に要する経費
教育費	19億7,888万円	学校施設の整備や文化・スポーツ振興などに要する経費
災害復旧費	4億5,672万円	農地・市道・河川などの災害復旧に要する経費
公債費	21億333万円	市が借り入れたお金の返済金に要する経費
予備費	2,000万円	

予算編成の基本方針

少子高齢化の進展等による社会保障費や、施設老朽化に伴う維持補修費の増大など、本市の財政は厳しい状況が続いています。このような事から、本年度の予算編成は、国等が実施するさまざまな事業の有効活用を行い、地域が元気になるソフト戦

略を積極的に推進するとともに、これまで同様、経常的な事務事業については、徹底した見直しや積極的な組替えを図り、経費の節減・効率的な運用を目指します。一方、後年度に強い経済力を生み出し、竹田市の将来に夢と希望を拓く事業提案については積極的に取り組みます。併せて、銀行からの借入金を繰上償還して将来の返済の低減を図り、将来に備えて基金の積立なども引き続き計上してまいります。

前年より7億4170万円減少

平成27年度一般会計当初予算は、総額184億9千万円で、消防庁舎建設や災害復旧費の計上が大きかった前年度当初予算と比べて7億4170万円(3.9%)の減額となっています。歳入では、市税が法人市民税や固定資産税の増収を見込み、前年度比804万円(0.5%)の増とされています。地方交付税は、普通交付税が78億円、特別交付税が地域おこし協力隊や集落支援員の増員分を加味し、前年度より7千万円増額の9億円、合計87億円を見込んでいます。

平成27年度の主な事業

●は国県等の財源を活用しています
○は市単独事業 ※は新規事業です

総務 総合収納システム導入事業 ※
2,068万円

システムの導入により、新たにコンビニでの税金等の納付の利便性を図る

総務 老朽危険空き家等
除却促進事業 ※ **500万円**

市民生活の安全・安心を図るため、管理不全な家屋の除却に対し、その費用の一部を補助

総務 地域おこし協力隊推進事業
1億2,374万円

一定期間地域に居住し地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や農林業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行い、その地域への定住・定着を図る

総務 集落支援員設置事業
1,510万円

地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材が集落への「目配り」として集落の巡回や状況把握等に取り組む

総務 竹田総合学院(TSG)事業
1,795万円

地域学を深め人材育成を図るとともに、竹工芸等のものづくりで創業を目指す人に対し、インキュベーション型工房の機能を強化し、多くの工芸家を受入れ定住対策との連携を図る

総務 農村回帰推進事業
1,066万円

空き家、空き店舗の活用や改修に対する助成、企業家の育成支援等

福祉 社会福祉施設等施設整備事業 ※
2億0万円

養護老人ホーム南山荘の民間移管に伴う施設建設補助

福祉 保育所支援事業 ※
6,107万円

認定こども園への移行に伴う保育所緊急整備、および認定こども園整備に対する補助

福祉 生活困窮者自立支援事業 ※
2,131万円

生活困窮者に対する相談支援機能等の充実により早期自立を支援

保健衛生 予防接種事業
5,105万円

今年度より新たに乳幼児の感染症予防としてロタウィルスワクチンの行政措置化による接種費用の助成を行う

環境衛生 小規模給水施設普及支援事業
3,600万円

公営水道の整備が困難な小規模集落などの水問題を解決するための支援

農林業 次世代を担う
園芸産地整備事業
1億8,871万円

花き、果樹、野菜のハウスや機械の導入などに対し助成

農林業 ブランド化推進事業
190万円

竹田米や竹資源を活用した竹炭米、および高原野菜のブランド化を推進

農林業 サフラン産地活力創造事業
180万円

サフランの種苗助成等により100年以上の栽培が続く日本一の産地を維持

農林業 有害鳥獣被害防止対策事業
3,746万円

イノシシ、シカなどの野生鳥獣による農林業被害防止のための支援

農林業 流木被害森林緊急整備事業
1,397万円

河川上流域の人工林の伐採や広葉樹林化により、多面的機能の向上を図り、災害に強い森林づくりを行う

農林業 畜産総合対策事業
5,455万円

生産基盤の確立と拡充、肉用牛の血統対策、繁殖雌牛の若返り対策等

農林業 大分県畜産公社新施設
整備事業 ※ **7,206万円**

豊後大野市にある老朽化した既存の食肉処理施設の建替に伴う建設費の補助

農林業 県営土地改良事業
2億5,813万円

農業施設の近代化や農地の集約化を行い、作業効率や生産性の向上を図る

農林業 多面的機能支払交付金事業
2億1,561万円

農業・農村の多面的機能を発揮するための地域活動や営農の継続等に対する支援

農林業 中山間地域等直接支払交付
金事業 **5億6,991万円**

農業生産条件の不利を補正するため、生産活動を維持する活動を支援

商工 中心市街地活性化事業 ※
4,200万円

まちづくりたけた株式会社への出資および補助

観光 観光振興事業 ※
8,590万円

大船登山道整備、登山バス、ウェイクボード環境整備、おんせん県おおいたデスティネーションキャンペーン等

土木 社会資本整備
総合交付金事業
5億5,622万円

【道路改良・維持】 1億6,600万円
城原線、長慶橋宇津線吐合橋、直入中央線、志土知久保線

【防災・安全対策】 1億4,100万円
君ヶ園1号線、川床上畑線、濁淵川向線、宮砥中角線、下河原線、白水橋、濁淵橋

【都市再生整備】 7,890万円
電線類無電柱化、道路・歩道整備、道路美化、街路灯整備

【街なみ環境整備】 2,222万円
歴史的街なみ景観地区における住宅・文化財等の修景助成

【地域住宅支援】 1億4,810万円
直入スカイビュー団地2棟、旧名水寮・ドイツ村住宅改修工事

土木 急傾斜地崩壊対策事業
2,010万円

降雨や地震などによるけ崩れを防ぐための安全安心な住環境整備

消防 消防施設整備事業
1億4,529万円

救助工作車の更新、消防団車輛の更新
防火水槽の新設

教育 学校施設整備事業
4,834万円

城原小の耐震補強工事、白丹小のプール改修、南部幼稚園の空調設置

社会教育 文化会館建設事業
2億9,066万円

文化会館の解体除却工事等

社会教育 新図書館建設事業
5,972万円

新図書館建設に係る用地購入等

社会教育 体育施設整備事業 ※
5,615万円

久住高原のマラソンコースにトイレ・更衣室等の整備、総合運動公園の外周路の整備

文化財 岡藩主中川家墓所
保存整備事業 ※
4,880万円

大船山にある3代藩主、中川久清(入山)公の墓所整備等

文化財 岡城跡整備事業 ※
1億5,310万円

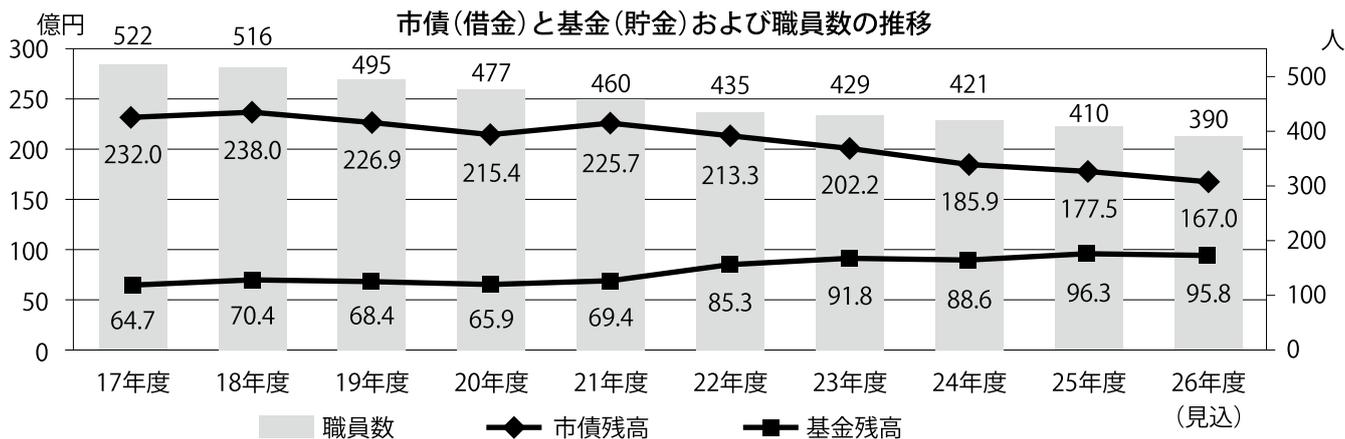
二の丸便益施設整備、登城バス、城内通路舗装工事、岡城跡ライトアップ、二の丸・三の丸の公有化事業等

■特別会計

会計名	当初予算額	会計名	当初予算額
竹田市立こども診療所特別会計	7,610万円	簡易水道事業特別会計	2億3,303万円
長湯温泉療養文化館特別会計	4,640万円	農業集落排水事業特別会計	2億3,389万円
国民健康保険特別会計	41億6,482万円	浄化槽整備推進事業特別会計	2億1,981万円
後期高齢者医療特別会計	3億6,578万円	国民宿舎久住高原荘事業特別会計	3億5,066万円
介護保険特別会計	38億9,758万円	国民宿舎直入荘事業特別会計	1,508万円

■水道事業会計

区分	当初予算額	区分	当初予算額
収益的収入(水道料金など)	1億8,377万円	資本的収入(工事負担金など)	375万円
収益的支出(水道水供給費用)	1億8,198万円	資本的支出(建設改良費・償還金)	9,727万円



平成26年度予算の追加補正について

総額1億9,453万円 国の臨時交付金はこのように使います
地域住民生活等緊急支援のために

■地域消費喚起・生活支援型

No.	担当課	事業名	事業概要	予算額
1	商工観光課	消費喚起プレミアム商品券発行事業	プレミアム率20% (1,000円券12枚綴) 商工会および商工会議所が発行する商品券への補助	1億円

■地方創生先行型(まち・ひと・しごと創生事業)

(単位: 万円)

No.	担当課	事業名	事業概要	予算額
1	企画情報課	総合戦略策定事業	市地方創生TOP戦略本部を組織し、外部有識者を含めた第三者委員会で人口ビジョンや総合戦略を策定する	521
2	企画情報課	農村回帰移住・定住支援事業	移住・定住を促進するため、東京・大阪・福岡で相談会を含む農村回帰フェアを開催し積極的な情報発信を行う	172
3	企画情報課	移住者居住支援事業	県外からの移住を促進するため、移住に必要な住宅の新築・購入・改修費用などに対し支援を行う	700
4	社会福祉課	おおいた子育てほっとクーポン活用事業	クーポンを出生時に配布し、子育て家庭の精神的・身体的・経済的な負担の軽減を図る	500
5	社会福祉課	地域における保育環境改善事業	保育所の施設環境および屋外遊具等の改修・改善を行い子育て世帯の施設利用満足度を上げる	980
6	企画情報課	食品産業地域連携推進事業	地域食品加工の成長を促進するため、地域金融機関との連携の下、生産性の向上に必要な機械化に対し支援する	1,200
7	商工観光課	宿泊施設・観光施設等における無料公衆無線LANの設置事業	観光客からニーズの高い無料公衆無線LANの設置費用の助成を行い、さらなる観光客の増加を図る	250
8	商工観光課	国民保養温泉地再生プロジェクト事業	温泉等の地域資源を活用し、産学官連携のインバウンドも視野に入れた情報発信等を行い温泉地域の再生を図る	350
9	商工観光課	新たな戦略的観光コンテンツの磨き上げ事業	新たな移動手段の実証実験を行い、幅広い年齢層の新しい観光コンテンツの整備を行い観光誘客を促す	250
10	農政課	道の駅機能拠点強化事業	駐車場の拡幅を行い利用客数のさらなる増加を図るとともに、地域ブランド開発や流通販売対策等に取り組む	4,530
小計				9,453

市税・使用料等がコンビニエンスストアでも納付ができます！

近くのコンビニ 気軽に納付を！



4月1日から市税や水道料などの納付が、コンビニエンスストア(以下コンビニ)でもできるようになりました。納期限内であれば、曜日や時間に関係なく、全国のコンビニで納付(手数料無料)することができます。

■納付できる市税、使用料等

- 市県民税(普通徴収) ○固定資産税・都市計画税 ○軽自動車税 ○国民健康保険税 ○後期高齢者医療保険料 ○介護保険料
- 上水道使用料 ○簡易水道使用料 ○住宅使用料 ○農業集落排水使用料 ○コミュニティプラント使用料 ○浄化槽使用料 ○保育所保育料 ○ケーブルネットワーク使用料 ○学校給食費 ○災害分担金(農地・施設)

■利用できるコンビニ(順不同)

「市内で利用できる「コンビニ」

エブリワン、ローソン

「その他の「コンビニ」

ファミリーマート、セブン・イレブン、ココストア、ポプラ、くらしハウス、サークルK、スーパー北海道、スリーエイト、サンクス、M M K 設置店、スリーエフ、生活彩家、セイコーマート、セーブオン、タイエー、ミニストップ、コミュニティストア、デイリーヤマザキ、ハセガワストア、ローソンマート、ローソンストア100、ヤマザキデイリーストア、ヤマザキスペシャルパートナージュップ、ニユーヤマザキデイリーストア

■次のような納付書はコンビニでは納付できません。金融機関または市役所などで納めてください

- ・納期限が過ぎた場合
- ・バーコードが印字されていない場合

- ・納付書1枚あたりの金額が30万円を超える場合
- ・破損・汚損などによりバーコードが読み取れない場合
- ・金額を訂正した場合

- ・平成27年3月31日(火)までに発行されたもの

*コンビニで納付された場合は、領収証書とレシートを必ず受け取り、5年間大切に保管してください。

◎納付の前に、期別・納期限をお確かめください

コンビニ収納開始に伴い、納付書の様式が1枚ごとの単票形式に変更されました。

納付書が1枚1枚バラバラですの
で、特に期別をお間違えのないよう、
納期限をよくお確かめのうえ、納付
をお願いします。

期別の取り違いにより、お手元で
納期限を超過した納付書は未納扱い
となり、督促手数料や延滞金が発生
しますの、ご注意ください。

●お問い合わせ 竹田市税務課

☎63-1111 (内線122)

税金を滞納すると年9.1%の延滞金がかかります

税金を滞納すると、納期限から1月までは年1.8%の割合で、1月を過ぎると年9.1%の割合で延滞金がかかります(適用期間：平成27年1月1日～平成27年12月31日)。

税金を滞納すると延滞金がかかりますだけでなく、給与、預貯金、生命保険、売掛金、宅地、家、自動車、テレビなど、法に禁止されず金銭化することができるすべての財産が差押の対象となります。

税金は納期限内に納めましょう。



『竹田市行財政改革』実践へ

4月1日から市役所の行政組織及び業務分担が変わります！

竹田市では、平成22年度から26年度までを第2次行財政改革実施期間と定め、行財政改革に取り組んできました。実施期間最終年度の取り組みとして、4月1日から次のとおり、行政組織及び業務分担を変更します。

「入札・検査課」の廃止、 「会計課契約検査室」へ移行

入札・検査課を廃止し、新たに会計課契約検査室に移行します。これまでの業務(主に入札、検査、入札参加資格審査等)に加え、契約に関する総合調整を担います。この取り組みは、定員管理において成果を挙げました。執務室はこれまでと変わらず、福祉事務所(社会福祉課)の横にて業務を行います。

「保険課」の廃止、保険課業務を「高齢者福祉課(新)」「保険健康課(新)」へ移行

保険課の業務であった「介護保険業務」を高齢者福祉課に、「国保・高齢者医療業務」を保険健康課(旧健康増進課)に移行します。このことにより保険課を廃止します。

「福祉事務所」組織機構の見直し

福祉事務所は、「社会福祉課」と「高齢者福祉課」の2課で組織されます。「社会福祉課」は、これまでの福祉事務所内にて、「高齢者福祉課」は、市役所

本庁の隣、竹田市総合社会福祉センター内の旧社会福祉協議会事務室内において執務を行います。2課に分課致しましたが、窓口サービスが低下しないように円滑な対応を行っていきます。高齢者福祉課は、当面、土足対応ができません。市民の皆さまにはご不便をおかけします。ご理解とご協力をお願いいたします。

「社会福祉課(新)」の業務

社会福祉課の業務は、生活支援(生活保護相談・決定、生活困窮者自立支援等)、子ども・子育て支援(児童虐待防止、児童手当、育成医療、保育所放課後児童クラブ、ひとり親家庭支援等)、障がい者支援(補装具、更生医療、障害者手帳、療育手帳、自立支援等)などの業務です。高齢者支援に関する業務(日常生活用具、虐待防止、見守りシステム、老人ホーム入所等)は、高齢者福祉課に移行します。

「高齢者福祉課(新)」の業務

高齢者福祉課の業務は、これまで福祉事務所が行っていました高齢者支援に関する業務及び旧保険課が行っていた

ました介護保険業務と、社会福祉協議会に委託していません地域包括支援業務です。高齢者支援・介護保険・地域包括支援に関する業務を総合的にを行います。

「保険健康課(新)※旧健康増進課」の業務

保険健康課の業務は、これまで健康増進課が行っていました業務(主に、健康づくり、健康増進、地域医療、感染症予防、母子保健など)に加え、旧保険課が行っていました国民健康保険及び後期高齢者医療に関する業務を行います。このことにより、市民の疾病予防のための健康づくりを一層効果的に実施することが可能となり、そのことが、国民健康保険の安定した運営に繋がっていくものと考えています。

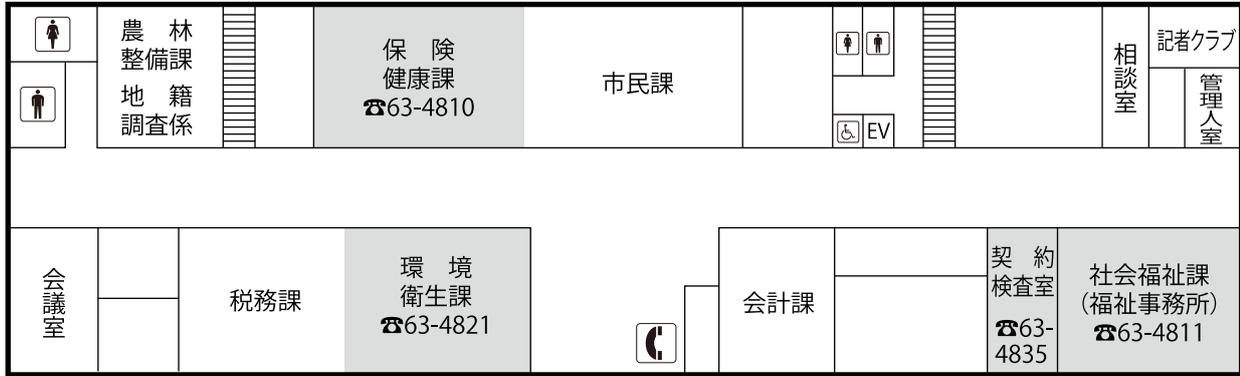
*

国・地方を通じた厳しい財政状況下、最小の経費で最大の効果を挙げられるように、これまで以上に効率的な行政運営を目指していくことが重要となります。誇れる行政サービスを提供できるよう行政改革に取り組みます。

4月1日から一部、市役所の執務室を変更します

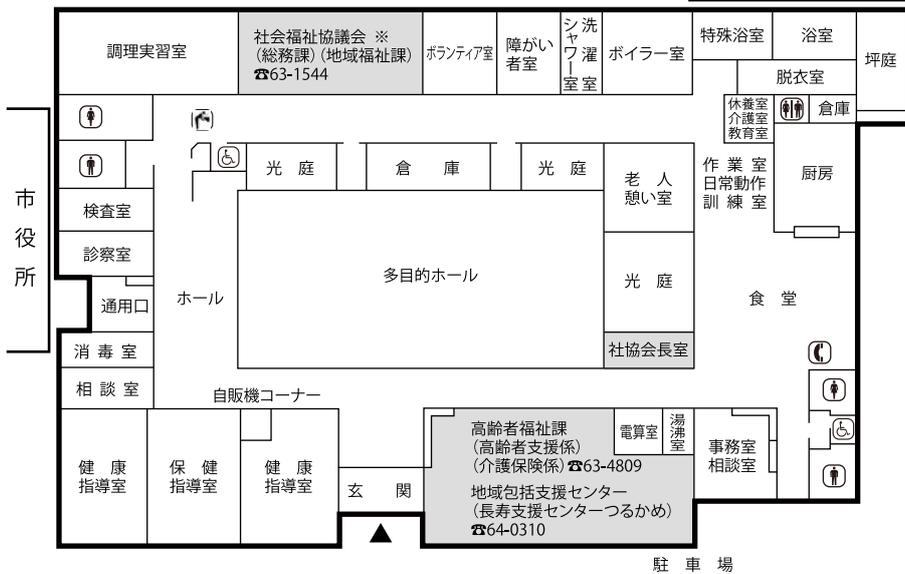
「行財政改革」とは……？
 財政面での経費節減と効率性及び行政サービスの質を向上させることを目的として行われる行政改革の一つです。

竹田市役所本庁舎 1階



正面玄関

※社会福祉協議会(総務課・地域福祉課)は、総合社会福祉センター内の会議室に移動して執務を行います。



竹田市総合社会福祉センター (市本庁舎のとなり)

南蛮文化振興室の場所が変更になります

4月1日より、商工観光課南蛮文化振興室の執務室が変更になります。新しい場所は、竹田温泉「花水月」の正面向かって右端です。

所属は、これまでと同じように商工観光課内の室であり、直通電話番号も以前と同じ(63-3383)です。

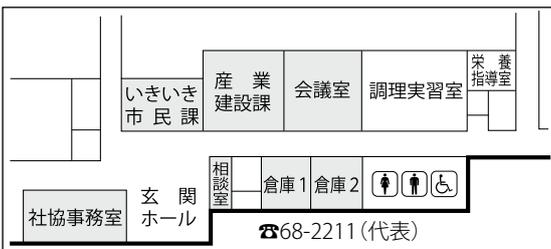
荻支所が「荻福祉健康エリア内」に移転しました

「荻庁舎」59年間の歴史に幕

合併10周年を迎える本年、竹田市荻支所は荻地域住民サービスの向上を図るため、現在地から「荻福祉健康エリア」施設内に移転しました。

現荻支所で最後の業務日となった3月20日、国旗・市旗降納式及びお別れ式が行われ、市職員OBや関係者ほか、約80人が参加。国旗・市旗が降納されると、約60年にわたり地域に愛されてきた庁舎に感謝の気持ちを込め、大きな拍手が送られました。

続いて開かれたお別れ式。参加者は、尽きることのない思い出を語り合いました。



↑新「竹田市荻支所」となる荻福祉健康エリアの施設内の間取り (荻町恵良原1772-7)



荻庁舎お別れ会→

平成27年度竹田市人事異動

〔平成27年4月1日付〕（内は旧役職）

課長

▽総務課参事兼行政改革推進室参事(総務課長補佐兼行政改革推進室長補佐)吉野文浩▽財政課長(市長公室長)後藤和重▽税務課長(建設課長補佐兼都市計画係長)相馬隆英▽市民課参事兼市民係長兼年金係長福祉事務所次長兼生活保護係長)吉野憲之▽環境健康課長(健康増進課長)後藤新一▽環境衛生課参事(財政課参事兼市有財産経営管理室長)大谷恭二▽社会福祉課長(福祉事務所長)菊池博文▽社会福祉課参事兼生活保護係長(秋支所いきいき市民課長補佐兼人権・同和对策課長補佐)(併)選挙管理委員会秋支局次長(企画情報課農村回帰推進担当)倉原邦夫▽高齢者福祉課長(財政課長)後藤俊治▽高齢者福祉課参事兼介護保険係長(保険課長補佐兼介護保険係長)志賀良雄▽養護老人ホーム南山荘参事兼管理係長(生涯学習課参事兼久住教育係長兼久住公民館長)工藤英信▽農政課長(商工観光課長兼野外活動施設所長兼滝廉太郎記念館長兼花水月館長)林寿徳▽農政課参事兼畜産振興室長(生涯学習課参事兼直入教育係長兼直入公民館長兼B&G直入海洋センター)古壮弘幸▽農林整備課長(建設課参事兼玉来々ム・中九州横断道路推進室長)志賀清隆▽商工観光課長兼野外活動施設所長兼滝廉太郎記念館長兼花水月館長(農林整備課長)秦博典▽建設課長(久住支所産業建設課長)堀慎司▽会計管理者兼会計課長(建設課長)阿南智博▽契約検査室長兼契約検査

室庶務係長事務取扱(秋支所産業建設課長)立川昌男▽秋支所産業建設課長(入札・検査課長)上野寿雄▽久住支所産業建設課長(農林整備課長補佐兼地籍調査係長)安達敬一▽生涯学習課参事兼中央公民館次長兼竹田市文化会館次長兼佐藤義美記念館次長兼公民館・生涯学習係長(生涯学習課長補佐兼中央公民館次長兼竹田市文化会館次長兼佐藤義美記念館次長兼公民館・生涯学習係長)岩本郁▽生涯学習課参事兼久住教育係長兼久住公民館長(養護老人ホーム南山荘次長)大塚斎昭▽生涯学習課参事兼直入教育係長兼直入公民館長兼B&G直入海洋センター所長(文化財課参事兼文化財係長)井上隆明▽議会事務局(会計管理者兼会計課長)木下郁雄▽水道課長(農政課参事兼林業振興室長)吉良喜久男▽消防本部庶務課参事兼庶務係長兼經理係長(総務課防災危機管理官(併)消防本部庶務課長補佐)大塚正三

課長補佐

▽総務課長補佐兼行政係長(総務課主幹兼行政係長)後藤靖文▽総務課長補佐(防災担当)(教育委員会総務課主幹兼施設管理係長)阿南裕彦▽市長公室長兼秘書広報係長(健康増進課長補佐兼管理係長)宮成公一郎▽財政課長補佐兼市有財産経営管理室長(商工観光課長補佐兼商工観光係長)後藤惟稔▽保険健康課長補佐兼管理係長(文化財課長補佐兼文化財管理係長)工藤哲郎▽保険健康課長補佐(健康増進課長補佐兼健康

増進係長)坂本信江▽保険健康課長補佐兼国保・高齢者医療係長(保険課長補佐兼国保・高齢者医療係長)菊池享子▽環境衛生課長補佐(入札・検査課長補佐兼農政課長補佐兼ブランド推進室長)羽田野泰弘▽人権・同和对策課長補佐兼人権・同和对策係長(環境衛生課長補佐兼環境衛生係長)上田哲士▽社会福祉課長補佐兼管理係長(福祉事務所次長兼管理係長)大神正己▽高齢者福祉課長補佐(保険課長補佐)甲斐香代子▽高齢者福祉課長補佐兼高齢者支援係長(南山荘次長兼生活相談係長)大濱寿賀子▽高齢者福祉課付課長補佐(竹田市地域包括支援センター事務従事)(保険課付課長補佐(竹田市地域包括支援センター事務従事)渡辺由美子▽養護老人ホーム南山荘次長兼生活相談係長(人権・同和对策課長補佐兼人権・同和对策係長)和田雪子▽農政課長補佐兼林業振興室長(農政課林業振興室主幹兼係長)氏田哲生▽農政課長補佐(農林整備課長補佐兼庶務係長)後藤將道▽農政課長補佐兼ブランド推進室長(秋支所産業建設課長補佐)前原文之▽農政課畜産振興室長補佐(直入支所産業建設課長補佐)津島一登▽農林整備課長補佐兼庶務係長(建設課長補佐兼道路管理係長)衛藤洋一▽農林整備課長補佐兼大野川上流推進・農村計画係長(農林整備課長補佐兼農村計画係長)今澤盛治▽農林整備課長補佐兼地籍調査係長(直入支所産業建設課長補佐)安藤信次▽商工観光課長補佐兼商工観光係長(建設課長補佐兼兼道路河川係長)堀徳広▽建設課長補佐(久住支所産業建設課長補佐)阿南一雄▽建設課長補佐兼都市計画係長(商工観光課長補佐)工藤隆浩▽建設課長補佐兼玉来々ム・

中九州横断道路推進対策室長(環境衛生課長補佐)赤木宏幸▽契約検査室長補佐兼検査係長(入札検査課長補佐兼検査係長)古澤眞治▽秋支所いきいき市民課長補佐兼人権・同和对策課長補佐(併)選挙管理委員会秋支局次長(企画情報課農村回帰推進担当)(企画情報課長補佐兼情報化推進室長)森正治▽久住支所産業建設課長補佐(久住支所産業建設課主幹兼係長)高司幸明▽教育委員会総務課長補佐兼施設管理係長(農林整備課長補佐兼基盤整備係長)甲斐孝二▽文化財課長補佐兼文化財管理係長(企画情報課エコミュージアム推進室主幹兼係長)古田卓▽議会事務局次長兼庶務係長(議事事務局主幹兼庶務係長)野仲芳尊▽選挙管理委員会事務局次長兼選挙係長(併)監査事務局次長(選挙管理委員会事務局主幹兼選挙係長)監査事務局主幹兼係長)上野多希子

係長

▽企画情報課エコミュージアム推進室主幹兼係長(総務課付主幹兼係長)渡辺良夫▽企画情報課情報化推進室長(建設課主幹兼庶務係長)渡辺康公▽税務課管理係長(税務課)本田広行▽保険健康課主幹兼健康増進係長(健康増進課)吉田まり子▽環境衛生課主幹兼環境衛生係長(環境衛生課)深田徹▽社会福祉課主幹兼障がい福祉係長(福祉事務所主幹兼福祉係長)筑紫聡▽社会福祉課主幹兼子育て支援係長(福祉事務所主幹兼子育て支援係長)峯田佳子▽農政課畜産振興室主幹兼係長(農政課)佐藤錦也▽農林整備課主幹兼基盤整備係長(秋支所産業建設課主幹兼係長)佐藤淳一郎▽建設課庶務係長(生涯学習課)広瀬恵三▽建設課主幹兼道

路管理係長(水道課付係長)吉野忠道▽建設課主幹兼道路河川係長(建設課)大塚幸治▽建設課玉来タム・中九州横断道路推進対策室係長(建設課)加藤剛▽荻支所産業建設課係長(荻支所いきいき市民課)井上清志▽直入支所産業建設課係長(総務課秘書広報係長)工藤賢稔▽文化財課主幹兼文化財係長兼歴史資料館次長兼文化財管理センター次長(稅務課主幹兼管理係長)後藤いずみ

■一般

▽總務課(企画情報課)久保芳久▽總務課(生涯学習課)倉原郁▽總務課付(大分県自治人材育成センター派遣)(總務課)野仲康弘▽企画情報課(環境衛生課)関口恵介▽財政課(福祉事務所)林宏美▽稅務課(保險課)渡辺文彦▽稅務課(會計課)後藤千鶴▽稅務課(荻支所いきいき市民課)工藤良次▽稅務課(保險課)佐藤直哉▽市民課(久住支所産業建設課)山崎竜介▽市民課(福祉事務所)後藤寿子▽保險健康課(健康増進課)峯野憲司▽保險健康課(健康増進課)堀田貴子▽保險健康課(稅務課)柴田剛志▽保險健康課(直入支所いきいき市民課)内柳知恵美▽保險健康課(健康増進課)渡部綾▽保險健康課(健康増進課)古村優香▽保險健康課(健康増進課)児玉寛子▽保險健康課(健康増進課)中里裕美▽保險健康課(健康増進課)首藤理恵▽保險健康課(保險課)赤峰佐知子▽保險健康課(保險課)渡辺法恵▽保險健康課(保險課)戸井田真▽保險健康課(健康増進課)柿沼尚子▽保險健康課付(後期高齢者医療広域連合派遣)(保險課付)後期高齢者医療広域連合派遣)津曲美香▽環境衛生課(財政課)井上久憲▽環境衛生課(生涯学習課)佐藤光裕▽社会福祉課(福祉事務所)佐藤哲也▽社会福祉課(福祉事務所)馬場勇二▽社会福祉課(福祉事務所)佐藤正子▽社会福祉課(福祉事務所)羽田野旦▽社会福祉課(福祉事務所)足達亜美▽社会福祉課(福祉事務所)内川充枝▽社会福祉課(福祉事務所)舞潤一▽社会福祉課(福祉事務所)渡邊一義▽社会福祉課(福祉事務所)波多野瑞恵▽高齢者福祉課(福祉事務所)宮原亨▽高齢者福祉課(市民課)佐田裕美▽高齢者福祉課(保險課)大津愛実▽農政課(荻支所産業建設課)安南泰彦▽農政課(生涯学習課)大久保正光▽農政課(稅務課)山口浩輔▽農林整備課(建設課)後藤和文▽農林整備課(建設課)古松克敏▽商工觀光課(農政課)古良進▽建設課(農林整備課)大森康司▽契約検査室(入札検査課)足達崇徳▽荻支所いきいき市民課(稅務課)赤木康造▽荻支所産業建設課(農政課)後藤誠郎▽荻支所産業建設課(環境衛生課)伊藤慎弥▽久住支所産業建設課(稅務課)足達京佑▽直入支所いきいき市民課(健康増進課)木津史恵▽直入支所産業建設課(直入支所いきいき市民課)菊地謙一▽久住中学校(竹田小学校)内田英子▽生涯学習課(保險課)橋爪妙子▽生涯学習課(企画情報課)後藤和司▽生涯学習課(商工觀光課)中村美智子▽生涯学習課(稅務課)松田尚也▽水道課(農林整備課)渡部泰彦

【平成27年3月31日付退職】

▽佐藤元比古(稅務課長)▽森日登美(市民課參事)▽菊池仁志(農政課長)▽後藤英一(議事事務局長)▽柏木良知(保險課長)▽後藤光博(農政課參事兼畜産振興室長)▽大塚俊裕(水道課長)▽山村孝二(農政課長補佐)▽工藤厚己(農政課長補佐)▽入江康太(市

民課)

【平成27年4月1日付新採用】

▽田北裕哉(稅務課)▽後藤紫織(社会福祉課)▽佐藤史織(高齢者福祉課)

竹田市消防本部・消防署人事異動

【平成27年4月1日付】(内は旧役職)

■消防本部・課長

▽消防長・消防司令長(消防署長兼消防本部警防課長・消防司令)大塚義徳▽消防本部次長兼庶務課長兼消防署長・消防司令(庶務課參事兼庶務係長・消防司令)山村俊治▽警防課長・消防司令(当直副司令兼消防係長兼通信係長・消防司令)工藤敦▽庶務課參事兼庶務係長兼經理係長・消防司令(併)總務課防災危機管理官兼消防本部庶務課長補佐・消防司令)大塚正三

■消防本部・課長補佐

▽庶務課長補佐兼消防團係長・消防司令補(庶務課消防團係長・消防司令補)志賀和吉▽警防課長補佐兼警防係長兼予防危険物係長・消防司令補(救急救助係長兼警防課付係長・消防司令補)佐藤洋和

■消防署・課長

▽副署長兼久住分署長・消防司令(久住分署長・消防司令)倉橋英信▽当直司令・消防司令(久住分署副分署長兼消防係長兼救急係長・消防司令)工藤中孝

■消防署・課長補佐

▽久住分署副分署長兼消防係長兼救急係長・消防司令(当直副司令兼調査係長・消防司令)飯田精華▽当直副司令兼消防係長兼通信係長・消防司令(警防課長補佐兼警

防係長兼予防危険物係長・消防司令補)佐藤道章

■消防署・係長

▽救急救助係長・消防司令補(消防署救急係・消防司令補)中村良太

■消防署・一般

▽消防署・消防司令補(久住分署・消防士)畑山宗徳▽久住分署・消防司令補(消防署救急係・消防士)後藤章八▽消防署・消防士長(久住分署・消防士)松尾直哉▽消防署・消防士長(消防本部庶務課消防團係・消防士)長野幸男▽消防署・消防士長(大分県防災航空隊派遣)大塚省吾▽久住分署・消防士長(消防署・消防士)足達大輔▽消防署・消防副士長(消防本部付・消防副士)堀真介▽久住分署・消防副士長(消防署・消防副士)阿南健二▽消防署・消防副士長(久住分署・消防副士)村中将斗志▽久住分署・消防副士長(消防署・消防士)内田佳佑▽消防署・消防副士長(久住分署・消防副士)工藤昭和▽消防署・消防副士長(久住分署・消防副士)吉野智博▽久住分署・消防士(消防署・消防士)前田翔

【平成27年3月31日付退職】

▽後藤清(消防長・消防司令長)▽麻生章治(消防本部次長兼庶務課長・消防司令)▽後藤茂(消防署副署長兼当直司令・消防司令)

【平成27年4月1日付新採用】

▽本田竜清(消防本部庶務課付・任消防士)

有由縁



市長コラム
〈第68回〉

議会で初めての反問

合併10年の成果と課題

平成27年第1回定例会が終わった。主な議題は新年度の予算。私にとつては、1期4年間と2期目の2年間を総括するような意味合いがあった。というのも、市政を担当しての6年間、市民の皆さんとともに対話を重ね、時間のあがる限り各地に出かけてイベントを楽しんだり、様々な議論を重ねてきた成果が見え始める時期を迎えるからである。

坂梨議員の代表質問に答えた。「これまでとこれからの問われれば、800メートル障害を走り第3コーナーを回ったところだろう」と。障害物としたのは、あの大水害のことであり、雪害のことでもある。それらを乗り越えて最後の200メートルを一心不乱に走り続けている自分の姿のことを例えたかった。市民の皆さんの災害に負けない不撓不屈の精神が私たちに復興のエネルギーを生み出させてくれたのは言うまでもない。市内外から寄せられた激励の大声援も大きな勇気となって疲れを吹き飛ばせてくれた。

ところで、今回の議会で私は初めて反問権を行使した。吉竹議員の一般質問に対してであった。質問の内容は、「合併して10周年を迎える。首藤市政が誕生して6年だ。周辺部対策も視野に入れて旧1市3町の均衡ある発展を標榜していたが、ある地域から、事業が平等に行われていないという声がある。どう思うか」というものであった。そういう声がかえらないではなかったが、どの地域からどのような声がかえっているのか、具体的にその内容を確認したくて、初めての反問権を行使した。

議員からの答えはこうだった。「周辺部からは、城下町を中心に旧竹田地区に偏っているとする声、中心部からは市長の地元である直入地域ばかりに力を入れているという声がある」と。

あらためて聞き直して、正直驚いた。周辺部から小言を聞いたことがほとんどなかった。あるとすれば、「観光ばかりで農業に目が向いていない」という声。しかし、大蘇ダムの問題解決への取り組み、トマトやカボスの選果機導

入、畜産のブランド化戦略など多くの予算を打ち込んできた姿勢が批判の対象になるのか。批判のための批判でないとすれば、さらにじっくり対話を重ねて、いかに農業政策に大きな予算を投じているかを説明しなければと思う。

一番驚いたのは、城下町からの声。「城下町に何もしなくて、直入地区だけに力を入れている」というもの。岡城の開発、公民館の分館整備、商店街の再生など、かつてこれほどの予算が城下町に投入されたことがあったらどうか、また今後さらに取り組みを強化する計画があるのを市民はどう判断しているのか。一方で、直入地域は財産を処分したことはあるけれど、民間の話題づくりの支援以外ほとんど手を入れていない。ウェイクボードや芹川じょうの養殖などは外部資本がほとんどなのだ。

さて、すべての基本は均衡ある発展である。材料は足元にある。荻地区ならば農業振興、久住地区ならばくじゅう連山と高原と畜産、直入地区は温泉と長湯ダム湖。竹田地区は岡城と城下町。

大船山に観光登山バスが走るのが羨ましいと言つても、城下町に山を移動させるわけにはいかない。長湯のような温泉が城下町にもほしいと言つても、無理な話である。要は、ないものねだりをして不平不満のネタにするのではなく、足元にある宝物をどう活かすかということを考えるべきだろう。

旧1市3町には、全国に誇れる個性的な宝物がたくさんある。すべてが全国区に通用する力をもっているのだから、認め合つて、励まし合つて、手を結んでそれぞれの夢を実現させようではないか。

平成27年度は、これまで待てなかった『可能性』という名の種が各地で花開くことになる。全国が注目する竹田市に育っているだけに、合併の底力を世界に向けて誇り高く見せつけ、子どもたちに夢と希望を授けることにしよう。

それが合併10周年を迎える新生・竹田市の決意表明となることを願っている。



↑盛大に行われた関西・東海地域「豊後竹田会」

「豊後竹田会」

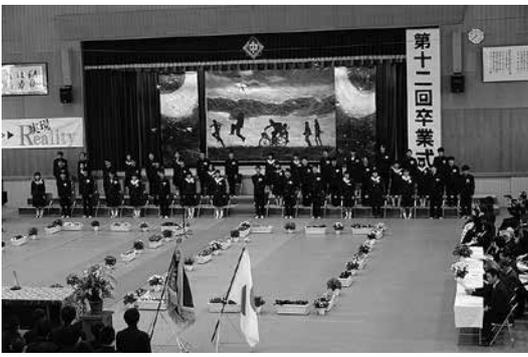
大阪市で開催

2月28日、関西・東海地域在住の竹田出身者及び竹田市ゆかりの方々が会員となつている、豊後竹田会の第5回総会が大阪市で開催されました。市合併10周年にあたり、相互の親睦を図り、ふるさと竹田の発展に貢献された上原辰之会長には市から感謝状が贈られました。

参加者は竹田の思い出を語りながら、親睦と交流を深めていました。

また、多くの方から「ふるさと竹田をぜひ応援したい」との申し出があり、後日「ふるさと竹田応援に関する書類をお送りさせていただきます」という連絡がきました。遠く離れた地からふるさとを思う気持ちに心打たれる一日となりました。

←先月、市内学校で行われた卒業式。竹田の未来をつくる子どもたちに「夢と希望」を…。



ふるさと風韻

竹田人に学ぶ

竹田市は、夢と理想と志を思い起こさせるまちである。

竹田市出身でご活躍の先輩方に、生まれ育ったまちの空気感に思いを馳せ、自由筆を走らせていただいた。いま自分の人生に風を吹かせながら……

(題字・草刈樵峰)

はじかい

「すぐお風呂に入らんと、はじかいで」ばあちゃんが言った。小学生の頃だったか、稲刈りはまるで大仕掛けの作品のようで面白かった。鳴り響くコンバインの大音。脱穀された籾は勢いよく噴きだし、袋をいっばいにする。整然とならんでいく藁たちを、ただただ夢中で見つめていた。日が暮れるころ、チクチク、チクチク痒い。何だかあちこちが「はじかい」なのだ。

「はじかい」……この言葉を口にすると、あのときの光景がよみがえってくる。元気だった祖父母、まだ強い日差しと黄金色の風景。たちこめる稲ホコリの匂い……。

思い起こせば、私の田舎は感性を育む学校だった。春、一面の蓮華畑に心躍った。花を摘んでは蜜を吸い、何度花飾りを作ったことだろう。梅雨、舗装されたばかりのアスファルトを蛙が跳ねる。車で押しつぶされた死骸だらけの道を、恐る恐るつま先で避けながら歩いた。雨の香りは私にとって、潰れたカ

エル匂いだったのかもしれない。もぎたてのとうもろこしは、じいちゃんの傑作。蒸しあがる直前の匂いを嗅ぎとった。熱々でプリッと光った、夏の記憶。あれはいつの季節だろう。毎年道路を大量の毛虫が横断する時期があった。頭がオレンジで黒い毛虫。石を投げると体を激しく揺らすので、気持ちが悪くて大嫌いだ。その毛虫が道路脇のカラムシの葉を食べつくすと移動を始める。ある通学時、通りを埋め尽くす大群に出くわした。泣きじゃくっていると、通りかかった同級生の男の子が私を背負って運んでくれた。あれから数十年、その毛虫を見かけると辺りを探してみるけれど、もう大群には出会えない。

に表れる。"ロマネ・コンティ"で有名なフランス、ブルゴーニュ地方は、村や畑によってワインの香りと味わいが異なる。そんなテロワール(土壌)が滲み出たワインに出会うとき、人は感動し心打たれる。なぜだろう。農家は代々アイデンティティともいべき畑を守り、畑は国のワイン法で守られている。なぜなのだろう。

大学は東京へ行った。大学を出て航空会社に就職してからは各国を訪れる機会が増えた。シンガポール、香港、ニューヨーク、北京……それぞれの街に特有の香りがある。ワインもまた同じだ。土地の香りがワイン

そして私は今、大分市内で暮らしている。自然は多くを語らず、個性のない快適な鉄の日常には、春を告げるウグイスの歌も冬の霜を踏む朝も、あの稲刈りの香りもない。

私は「はじかい」を知っているけれど、私の子どもたちは知らない。言葉はもちろん、ニュアンスさえ伝わらない。私の「はじかい」は私とともに消えていく。

「はじかい」……言葉が先になくなるのか、風土が先になくなるのか……そんなことを考えていた。



たか し みず り な こ
清水 高子

略歴

1969年竹田市生まれ。竹田高校卒。東京実践女子短期大学英文学科卒。
1990年～1997年全日本空輸株式会社 国際線乗務
Uターン後、2000年(株)ヴァンチャット設立 代表取締役社長
日本ソムリエ協会シニアソムリエ・ホテルレストランサービス技能士1級
県立芸術文化短期大学秘書実務講師・田北調理師専門学校フランス語講師
[ホームページ] <http://vinchat.jp/>



← 2 日目(2/24)、竹田入りした新地義昭選手(大久保病院勤務)



↑ 一致団結して大活躍した竹田市チームのみなさん

県内一周駅伝！ 祝・B部優勝、A部復帰 春季県体「第57回県内一周大分合同駅伝大会」

春季県体「第57回県内一周大分合同駅伝大会」が2月23日から27日の5日間、39区間(391.3km)で行われ、竹田市チームは見事総合3位となり、B部優勝・A部復帰を果たしました。

解団式で、志留哲哉監督は「選手の日頃の努力と市民の熱い声援で総合3位という成績を収め、B部優勝・A部復帰することができました」と報告しました。

選手たちの魂の走りが、市民に「勇気」と「感動」を与えてくれました。



ティーキューブ ブラックス ジュニア
T³-BLACKS.Jrが優勝！

3月14日、大分県ラグビーフットボール協会主催「タグフェスタin大分2015春のタグラグビー交流大会」が中津市で開催され、低学年の部で竹田市のT³-BLACKS.Jr(A)は全勝で見事優勝、同(B)チームも3位に入賞しました。27チームが参加。T³-BLACKSファミリー全員による勝利です！



竹田高ラグビー部が「九州大会」出場

竹田高校ラグビー部は、日田高校と大分商業の合同チームを昨年12月に結成。3月20、21日の両日に開催された「第16回九州高等学校10人制ラグビーフットボール会」九州大会に県代表として出場し、「2位グループ」で2位に入賞しました。

安達由美子さんに「農林水産大臣賞」

平成26年度農山漁村女性・シニア活動表彰で女性地域社会参画部門において、安達由美子さん(56歳・滝部)が長年にわたり、農業・林業経営に共同参画し、男女共同参画社会の実現に向けて、様々な立場から女性登用にに向けた活動に尽力した功績が認められ、農林水産大臣賞を受賞しました。

男と家族経営協定を結び、共に農業、林業に取り組んでいます。女性林研グループ会長として、農村女性連絡協議会に参画し、女性農業委員登用にも取り組み、自らも農業委員を3期9年務めました。平成19年から25年まで大分県森林審議会の委員等に任命され、林業参画経験を生かし、意見を発信しました。

現在では大分県女性農業経営士会会長、竹田市女性農業経営士MAPの会会長を務め、女性の社会参画を推進、後押しして



↑ 農林水産大臣賞を受賞した安達さん

います。

安達さんは「女性ならではの意見が求められる環境は少しずつですが増えてきています。私も三男一女の子どもたちを育てながらこれまでやってきました。男女参画というよりも、男性の理解は必要だと思います」と話しています。

受章おめでとうございませう

叙勲

○瑞宝双光章

早島 久吉さん(鏡・88歳)



元竹田市立明治小学校校長
40年間の永きにわたり、児童生徒の学力、健全な育成に尽力されました。

「長年小学校の理科教育研究に携わってきて、私なりに精一杯、自分の好きな道を務め上げることができたことは、誇りに思います。これも周囲の皆様のお陰です」

「玉来えびす会」が町おこし！ 世界でここしかないアート門松

昨年末、「平成26年度市民提案型地域活力創造事業」の認定を受けた、玉来地域の町おこし



年の初めに、多くの初詣客をお出迎えました

グループ「玉来えびす会」は、事業の一環として竹藝家・中臣一さんの指導のもと、「世界でここにしかない門松」を制作し、玉来地区にある扇森稻荷神社の鳥居に設置しました。

作業には会員や玉来地域の自治会から多くのボランティアが参加。高さ5メートルと4メートルのもの2か所、また百段階段の登り口にも1か所設置をしました。

高橋英敏会長は、「準備は思ったより大変でしたが、平和で穏やかな1年でありますようにと願いを込めました」と、語っていました。



↑下田保恵 代表取締役(写真中央)と野尻勇市郎 竹田店長(写真右)

「降灰対策」に支援！

3月17日、株式会社フレイン(下田保恵代表取締役)から阿蘇中岳噴火に伴う降灰対策事業の支援金として100万円の寄附をいただきました。

寄せていただいた善意は、農業者にとって大きな励みとなることでしょう。



「エコファーム21」トマト栽培施設落成式

3月19日、農事組合法人エコファーム21のトマト栽培施設(1.52ha)の落成式が行われました。

栽培面積は既存の施設と合せて3.39haとなり、売り上げは2億円が見込まれています。太田代表は「先人がこの大地に水を引き、基盤整備をしてくれたおかげで今回の大きな決断をすることができた。これからは私たちがトマトづくりの先人になれるよう地域に貢献していきたい」と挨拶を述べました。



幼稚園で楽しく国際交流

2月26日、国際交流員のヴァネッサさんが竹田幼稚園を訪問しました。国際意識を身につけてもらおうと、ドイツの紹介やドイツ語のレッスン、動物のカードゲーム等を行いました。子どもたちはすぐに溶け込み、楽しい時間を過ごしました。



↑植樹をする首藤市長と中村市議会議長

歴史文化交流ハートナーシップ宣言市
養父市から千年桜の苗木を寄贈
兵庫県の北部、但馬地域の中央に位置する養父市は、交通の要衝をなし、兵庫県下最高峰の水ノ山をはじめとする豊かな自然と歴史遺産に恵まれたまちです。
平成24年9月に竹田市と「歴史文化交流パートナーシップ宣言」を行い、交流を深めてきました。また、平成24年の大水害時には、職員の派遣により復旧に支援をいただいたところです。
今回、竹田市合併10周年を記念して、国の天然記念物に指定樹齢は千年を超える兵庫県で最大の「エドヒガン桜(樽見の大桜)」の苗木3本が本市に寄贈されました。交流の発展を祝う、開花が楽しみです。

監査公表

竹田市監査委員

佐伯 次人

同 森 哲秀

地方自治法第199条の規定

に基づき、平成26年11月から平成27年2月までの各月において、市長部局、教育委員会、議会事務局、選挙管理委員会事務局、及び農業委員会事務局の監査を実施したので、その結果をお知らせします。

■共通事項

財務事務に関する監査については事前に精査をし、監査当日は証書類及びその他関係書類等の審査を行い、処理について修正が必要な箇所は改善するよう指導した。

■税務課

税金の賦課・徴収においては、税の公平性の確保に努められ、今後も制度改正等に注視し電算入力ミスのないように、細心の注意とチェック機能を備えていただくよう要望する。

税金の滞納については、引き続き関係課との連携を図り、徴収の推進に努力するよう要望する。

■保険課

国保運営の安定化のために、引き続き関係課等と連携して保険事業の推進や医療費の適正化等に取り組み、併せて、国保税の収納率の向上に努められるよう要望する。また、介護保険の大規模な制度改正のなかで策定される竹田市介護保険第6期(27～29年度)事業計画については、市民の理解を得るための周知に努められるよう要望する。

■健康増進課・子ども診療所

健康増進・母子保健・介護予防事業等の推進と健康づくり組織の活性化に引き続き取り組むことにより、市民の健康の保持と増進が図られることに期待する。

子ども診療所については、引き続き市民の負託に応えられるよう健全な運営が行われるよう要望する。

■環境衛生課

小規模給水施設普及支援事業や合併処理浄化槽事業を引き続

き推進して、生活環境の維持保全と公衆衛生の向上を図っていただくよう要望する。

ごみの減量と分別方法(仕分)の推進を図り、ひいては経費の削減につながるよう取り組むことを要望する。

■福祉事務所

保育料及び災害援護資金費付金の未納金対策において、関係課と連携を図り推進に努力するよう要望する。

広範にわたる福祉事業に加え、超高齢社会に対するためには行政や社会福祉協議会等の役割分担を検討する必要があると思われる。効率的な体制(組織)を再構築し、福祉の向上と充実に努めていただくとともに、個人情報保護に特に留意されるよう要望する。

■養護老人ホーム南山荘

入所者が自立した日常生活を営み、生きがいを感じる事ができるように引き続き支援されることを要望する。

施設運営の民営化の移管が円滑に実行されるように、関係機関と連携して取り組まれるよう要望する。

■商工観光課

地域雇用の創出と地域経済の活性化のために、商工業の振興事業の推進に努められるとともに、観光振興は各関係機関と連携して取り組まれるよう要望する。とりわけJＲディスプレイネーションキャンペーンの成功に向けて万全を期していただきたい。また、各種団体等への補助(助成)事業については、成果を十分検証されるよう要望する。

竹田温泉「花水月」については、補修計画等を策定して安定した運営と安全確保に努められるよう要望する。

■入札・検査課

公共工事の適正な執行と品質の管理を引き続き図るとともに、物品や業務委託の入札事務、建築工事の検査処理について、事務手続きの適正化を更に推進(指導)して対応することを要望する。

■消防本部

市民が安全で安心な生活ができるよう、引き続き火災や救急業務の的確、迅速な対応が図られるよう要望する。特に、高齢社会に対応した予防業務に努めていただくよう要望する。

■総務課・行政改革推進室

公の施設の詳細な実態調査を行い、将来の活用計画等を明確にするとともに、指定管理については業務内容、管理期間等をさらに踏み込んで関係課に指導

されるよう要望する。

行財政改革については、事務改善をさらに推進し、組織機構の改革(効率化)を図るなかで、定員管理等を確立するなど一層の推進を要望する。

■企画情報課

エコミュージアムや農村回帰の推進を関係課・機関及び市民と協働して取り組むことにより、地域振興がさらに図られることを要望する。

ケーブルテレビ、告知放送は、引き続き市民が親しみ誇れる内容の展開を図っていただくよう要望する。

併せて、ケーブルテレビ使用料の未納対策を図り、健全な運営を要望する。

教育委員会

■教育総務課

教育施設の経年による老朽化が進んでいるので、今後の維持管理を検討したうえで、整備計画の元、児童・生徒の安全安心な教育環境の整備を図られるよう要望する。

■学校教育課

「教育のまちTOP運動」も第2フェーズ(平成25～27年度)に入り、各項目とも着実に向上している中で、さらに深化、拡充を図り成果が上がることを要望する。

■生涯学習課・中央公民館・文化会館

生涯学習及びスポーツ振興について、市民が学び・学習の活動を続けていくことの推進と、心身の健全な発達に向けて、引き続き取り組まれるよう要望する。

文化会館・中央公民館・体育センターの再建については、文化・生涯学習・社会体育事業の拠点施設として、着実な取り組みを要望する。

荻・久住・直人の教育係においては、各地域の活動拠点として、市民に活気が出るように積極的な事業展開をされるよう要望する。

■文化財課・歴史資料館

文化財保護事業や岡城跡保存整備を更に推進させ、公開と利活用を視野に入れて取り組まれるよう要望する。

岡城跡にガイダンスセンターの設置に向けての協議を引き続き図り、また、貴重な文化財を市民に周知理解を深める目的で映像化することを更に検討されたい。

歴史資料の収集・整理・保存に引き続き努めていただくとともに、調査・研究を深め、展示講座等の普及活動を更に推進されるよう要望する。併せて、所蔵品の電子台帳化を引き続き進められたい。

■議事事務局

議会にかかる資料の収集を引き続き行い、情報の提供と共有を図っていただくよう要望する。

■選挙管理委員会事務局

各選挙に周到な用意をして、適正に執行されるよう要望する。

■農業委員会事務局

国等の農業施策(制度)を注視し、情報の収集と提供を図ることで、農業委員会活動に反映されることを要望する。

竹田市防災拠点 機能強化へ

竹田市消防本部・消防署庁舎Ⅱ期工事及び消防救急デジタル無線システムが完成

平成25年度に完成した新庁舎Ⅰ期工事(事務棟・訓練棟)に引き続き、平成26年12月にⅡ期工事(車庫棟)が完成、今年3月に消防救急デジタル無線システムの整備が終了し、これで防災拠点として全ての整備事業が完了しました。

車庫棟は、防寒及び夜間セキュリティ強化のためシャッターを備え、署員の動線に配慮した出動準備室を隣接し、出動までの時間短縮が図られる配置です。さらに感染防止のための救急用洗浄消毒室を新たに設ける等、傷病者や署員の安全に考慮した構造となっています。2階には、訓練や各種講習会、大規模災害時等の緊急待機場所としても利用できるような柔らかい床材を使用した多目的ホールを配置し、市民の皆様にも利用しやすい施設となっています。

また、消防救急デジタル無線システムは、全国的に平成28年5月31日で終了する現在のアナログ無線に代わるシステムで、同時に発生した災害事案にもそれぞれで対応できる活動波2波を備えており、クリアな音声で市内のほぼ全域をカバーする高度なシステムです。秘匿性があり傷病者の個人情報の保護と併せて一刻を争う救急・災害現場での活用が期待できます。



←完成した新消防署庁舎



↑通信指令室(消防救急デジタル無線システム・緊急通報指令システム)

●お知らせ 消防署久住分署は、災害によっては全署員が出動し無人になる場合がありますので、不在の場合は下記までご連絡ください。

- 緊急の場合は 119
- 火災等のお問い合わせは ☎63-4119(音声録音)
- その他のお問い合わせは ☎63-0119(竹田市消防署)

岡城跡の大手口階段に木製補助階段を設置

人を惹きつける岡城へ



↑「昇り降りが楽になった」との声。大手口木製階段を昇るみなさん

岡城跡の大手口の階段については、傾斜が急なことに加え、

階段の段差が高かったため、「昇降しにくい」との意見が多く寄せられていました。この状況を解消するために、今回木製の補助階段を設置することになりました。

木製階段は、段差を約15cm程度とし、高齢者でも昇降しやすい造りとなっています。

桜まつり・花見シーズン前にした3月26日、昇り初め式を行いました。

環境整備で石垣の魅力を

大手門周辺の環境整備として、石垣に影響を及ぼす樹木の伐採も併せて実施し、登城口から大手門櫓の雄大な石垣を見ることができるようになりました。

今後も、石垣に影響を与え史跡の環境を阻害する不要木の伐採を実施し、周辺からも岡城跡の石垣を見ることができるよう環境整備を実施していく予定にしています。



名誉市民の中川久定氏

入山公墓所の土地を寄贈

名誉市民中川久定氏から大船山にある入山公墓所の土地が寄贈されました。

入山公墓所は岡藩三代藩主中川久清公の墓所で、標高1,400mの日本一高い場所にある大名墓所であり、国の史跡に指定されています。今回、入山公誕生400年を記念して中川久定氏より指定地16,364㎡が寄贈され、平成27年度から入山公墓と参道の保存修理が実施され、当時の姿に復元されます。

また、入山公墓所の他に岡藩主中川家関連の土地627㎡も併せて寄贈されています。

第8回由学館セミナー「歴史ロマン岡城ものがたり」開催 ふるさとへの歴史を誇りに

3月1日、竹田総合地域学センター由学館第8回由学館セミナーが竹田市総合社会福祉センターで開催されました。市内外から約150人が来場。今回は「歴史ロマン・岡城からキリシタンまで」をテーマに、竹田市のシンボル「岡城跡」を「源義経」や「キリシタン」と絡めて見直し、意識を広めていこうと企画しました。

はじめに作家の櫻田啓さんが「歴史ロマン岡城ものがたり」緒方三郎惟栄からキリシタンまで」をテーマに講演。惟栄に関係して「穴森大蛇伝説」や「名字からの祖先発祥説」について講じていただきました。

続いて行われたパネルディスカッション。岩手県平泉町で世

界遺産認定に奔走した、八重樫忠郎氏平泉町総務企画課長補佐は「町では幼稚園から中学校に渡る『平泉学』に取り組み、参加体験知識思考、発信行動の学習を目指している」と、町の取り組み等を紹介しました。

竹田市南蛮文化振興室の後藤篤美室長は、「竹田市のキリシタンは長崎や熊本県天草市辺りより記録が15年ほど早い。竹田市には中川氏藩主の時のキリシタン資料や遺跡が多く残っている。これは藩主が異教を隠し通していたのだから」と、「藩主のかくしキリシタン説」等を発表。

コーディネーターを務めた大分県立先哲史料館の佐藤晃洋館長は、大分カトリック教会等で戦前から戦後の布教活動をしたマリオ・マレガ神父の資料や、現在パチカンで調査している資料の中に久住町冷川等の地名が表記されていたことを紹介しながら、「竹田市(直入郡)がキリシタン関連資料によく記載されていることを説明。

「伝説は伝説として伝え残しながら、史実を探って、ひと・歴史・地域がつながり、それをふるさとに対する誇りとして残していくことが大事である」と、総括しました。



竹田女子が「命の大切さ」訴える映画上映を企画 中高生に観てほしい！ 映画「うまれる」4.19(日)

「竹田を一緒に元気にしたい！」と、同じ志を持った女性が集まったグループ「竹田カタリア」。様々な職業や立場から知恵を出し合い、それぞれの夢や目標の実現を目指そうと、今年1月13日に発足。30代から40代を中心に、現在メンバーは7人。月に一度ミーティングを開き、市民のみなさんが楽しく参加できるイベントを企画しています。

今回は、家族の絆や命の大切さをテーマにしたドキュメンタリー映画「うまれる」の上映会を企画。4月19日(日)、竹田市総合社会福祉センターにて午前・午後2回で行われ、キッズスペースや授乳室も用意しています。

水野貴子代表は「私たちの会で初めて取り組む映画上映会です。命の大切さを考えさせてくれる作品。ぜひ中高生のみなさんに観てもらいたいです」と意気込みを語ってくれました。



4月19日(日) ①10:00~12:00 ②13:30~15:30
料金は大人1000円 / 4歳~高校生500円 / 3歳以下無料
予約・お問い合わせ 竹田カタリア ☎080-6440-3314 (10:00~20:00)
E-mail: taketa.kataria@gmail.com / FACEBOOK: 映画「うまれる」in 竹田〜いのち〜



↑「今後も女性ならではの企画を」と語る竹田カタリアのみなさん

4月19日(日) ①10:00~12:00 ②13:30~15:30
(竹田市総合社会福祉センター多目的ホール)

【料金】大人1000円 / 4歳~高校生500円 / 3歳以下無料

◇予約・お問い合わせ

竹田カタリア ☎080-6440-3314 (10:00~20:00)

E-mail: taketa.kataria@gmail.com / FACEBOOK: 映画

「うまれる」in 竹田〜いのち〜



↑ 設立した「COW飼会」



←「これまで若い担い手同士の交流がなかった。この会をきっかけにして、交流や親睦を深めたいしながら、頑張っていきたい」と抱負を語る甲斐善之会長

竹田市和牛後継者組織「COW飼会」が設立 力をあわせよう！あたりまえ〜♪

この数年、肉用牛繁殖雌牛頭数は県下の4分の1を占め、最大の産地となっている竹田市。肉用牛を飼育する戸々の農家の規模は年々拡大している一方で、肉用牛経営者戸数は、飼育農家の少子・高齢化による後継者不足等の原因により、年ごとに減少。平成21年は486戸でしたが、平成26年は353戸、平成27年2月の時点で326戸まで減少しています。

肉用牛飼育農家の若き後継者たちは「まずは組織を作って力を合わせよう」と、3月4日、竹田市和牛後継者組織設立総会が開かれ、「COW飼会(カウカウカイ)」が発足しました。

この会は「情報の交換」や「仲間づくり」、「肉用牛への意識高揚と研鑽の場づくり」を通して、肉用牛経営者の維持、拡大を目標としています。現在、組織のない3地域(竹田・荻・直入)を包括する構成で、会員数21名(竹田7名・荻4名・直入10名)でスタートすることになりました。

新規就農者の確保は厳しい状況の中、後継者・担い手問題の解消に向けて、第一歩を踏み出します。

3月2日、市内の商店主らで取り組んでいた「竹田まちゼミの会」の発会式が行われました。この会は、10年前に愛知県岡崎市で始まり、商店街にある個店の魅力を生かした講座「得するまちのゼミナール」(通称・まちゼミ)といわれ、現在全国約180か所に広がっています。

商店街の店主が講師になり、自分のお店で少人数のお客様を相手に、1時間程度の時間をかけて専門知識やプロの立場からの技術やコツを提供。受講料は無料で、まちゼミ開催時には商品販売は行わず、お客様とのコミュニケーションのきっかけや信頼関係づくりに徹することをルールとしています。

発会式では、規約が承認されるとともに、世話人が選任されるなど、体制が整いました。世話人代表・衛藤勝志さんは「まちゼミは商店街を元気にする一つの手立てにしか過ぎませんが、多くの商店街の方たちに参加してもらい、受講していただく方を増やしていきたい」と話しています。今後、年2回のペースで開催を予定。買い物客を呼び戻し、商店街の活性化に繋がることを期待しています。



県下初！「竹田まちゼミの会」発足 商店街に買い物客を呼び戻そう

創業を全力支援!

本市は平成27年2月27日付で、産業競争力強化法に基づき「創業支援事業計画」の認定を受けました。これにより、市内で創業を希望される方に、さまざまな支援制度を有利にご活用いただけることとなりました。

他自治体に先駆け好発進!

今後、市企画情報課エコミュージアム推進室にワンストップ相談窓口を設け、竹田商工会議所や九州アルプス商工会、市内各金融機関等の創業支援事業者とも連携し、創業に向けたサポートを行います。

3月19日、「創業支援事業計画」認定による支援制度について学習する「第1回竹田市創業支援セミナー」が、竹田商工会議所にて開催されました。市内の創業希望者や、創業をサポートする各機関の関係者等およそ40名が参加。国・県の支援制度について説明する大分県商工労働部経営金融支援室の工藤典幸室長、小野直主査の話に熱心に耳を傾けていました。



↑創業希望者が集まった「竹田市創業支援セミナー」

また、昨年12月に、創業支援補助金を活用し、市内でイタリアンレストランを開業された桑

島孝彦さんから、創業までの実際の取り組みについて具体的なアドバイスを織り交ぜながらお話しいただきました。

今後、創業をバックアップするセミナーや情報交流の場を設けていく予定です。特に、経産省の創業支援補助金の活用をお考えの方は、研修実績が申請の際のポイントにもなりますので、積極的な参加をお待ちしております。

今後、創業をバックアップするセミナーや情報交流の場を設けていく予定です。特に、経産省の創業支援補助金の活用をお考えの方は、研修実績が申請の際のポイントにもなりますので、積極的な参加をお待ちしております。

創業者向け支援措置のご紹介(H27年度)

【竹田市】

- 竹田市起業家育成支援事業補助金
市内で起業する場合、50万円を限度に起業に必要な経費の1/2を助成します。
- 竹田市歴史・文化資源活用型起業支援事業補助金
竹田ならではの歴史・文化資源等を利用した竹田に根付く起業を目指す人材の育成を図るため、100万円を上限に、起業に必要な経費の1/2を助成します。
⇒インキュベーション型工房・TSG「竹田総合学院」の工房やオフィスを提供。※その他さまざまな支援枠組みを準備
- 空き店舗対策
市内の空き店舗を利用して新規事業を行う場合、年額10万円を事業開始から3年間支給します。

【経済産業省】(H27年度)

- ◇創業補助金
※27年度より「創業支援事業計画」認定市町村限定の制度に
- ◇法人登記に係る登録免許税の1/2減免
・通常の法人設立時の免許税は15万円のため、7.5万円減免される
- ◇創業関連債務保証に関する優遇
・借入額(1,000万→1,500万)、保証開始時期(2か月前→6か月前)

●お問い合わせ 竹田市企画情報課 エコミュージアム推進室 ☎63-4801

竹田市が5歳児健診の県内のパイオニアってご存じですか?

竹田市では5歳児健診が行われています。この健診は、法律で定められているものではありません。2007年に竹田市が、大分県内で初めて始めた健診なのです。

我が子、我が孫の成長を微笑ましく見る一方で、その子の社会性の発達が気になったことはありませんか?元氣すぎて、じっとしていないとか、逆におとなしすぎて人前が苦手とか、同じことを何度言ってもわかってくれないとか、かんしゃく持ちだとか、こだわりがある

とか、興味の無いことにはまったく手を付けようとしないうか。子を持つ親の誰しもが、「気にはなっているけど、やがて自然とできるようになるのではな

いか?」、「もう少し待ってみようか?」、「でも小学校に入ってからやっつけていけるだろうか?」気になることだと思えます。その「ちょっと気になること」を相談する場が5歳児健診です。これらのことは、3歳児健診では気付かれないことが多く、しかし小学校入学以降に徐々に目立つようになり、将来の子どもの自身の悩みにつながっていく可能性があるもの

です。その芽を持っている子どもは、3〜4割もいるとされています。小学校に入る前に、子どもの特性に応じたかわり方のコツを学ぶことができれば、子どもたちは、苦手分野での困りが減り、得意分野を開花させ、よりよく育っていきけるでしょう。小さな気付き、悩みは、蓋をするよりもできるだけ早く相談して、「結局、何てこともなかったよね。」と、後から思えるようにしたいものです。

出張!

第9回

えがおの子育て小児科



— 地域医療・小児医療の視点から —

5歳児健診の県内のパイオニアである竹田市の、先を読む目には驚きさえ感じます。(大分大学医学部地域医療・小児科分野 是松聖悟)

食育活動レポ「たけた米粉プロジェクト」

伝えたい！米粉の魅力

『竹田産の米粉を使って、料理の楽しさ広げましょう』というキャッチコピーのこの企画。

まずは「米粉の利用が安心安全で地産地消につながることを」、そして「米粉をうまくお料理やお菓子作りに利用すると小麦粉よりヘルシーなので、その利用法を皆さんにお知らせする」という目的がありますが、単に米粉の消費を高めるといっただけでなく、同時に最近市内に増えた若手料理人たちと直接会話する機会を通じて、もっと身近に知ってもらおうと始まりました。

オープンしたての店舗で実際に講座を開催してくださった桑島孝彦さんは「竹田料理男子」という看板を掲げたメンバーのひとり。5回の講座の調整役も引き受けてもらいました。

また、いつも地域の栄養改善のボランティアとして活躍してくださっている食生活改善推進

協議会の方々をはじめ、食に興味があったり、料理好きの皆さんを中心に声掛けをさせていただいたところ、毎回定員を超える方々にお申し込みをいただきました。

メニューは新たに編み出してもらったレシピばかり。これらのおいしい米粉料理レシピは公表するとともに、参加した方にはぜひ周囲に広げていただきたいと考えています。皆さんプロのデモンストレーションで学び、試食で味わい、楽しい時間を過ごせたと思います。そして何より交流の輪が広がりました。こんな街中での楽しみな時間が、竹田の豊かさを生み出していくとともに、こころと身体の健康づくりにも通じると感じています。

今後も食を通じた楽しい出来事が生まれることを期待しています！

(保険健康課 堀田貴子)

米粉 × 若き竹田の料理人たち

今回講師を引き受けてくださった方々から感想や今の想いを綴っていただきました。

第1回 桑島 孝彦さん
(Osteria e Bar ReCaD)
2/18(水) 14:00-16:00
「シチュー、米粉ロールケーキ」

この町に戻ってきて2年の月日を過ごし、都会にはない奥深い魅力を日々感じています。竹田は本当に食資源にあふれ何気なく口にすると味わい深いものばかりです。その時の旬を感じて、気軽に安全に食事を楽しめるのは都会ではあり得ないこと。そんな幸せをこの町は当たり前に行っている。その素晴らしさは一度この町を離れないと気がつくことはできなかったと思います。

今回の料理教室で、単に食事をするだけではわからないその店やオーナーの魅力、食材の魅力が伝わったのではないのでしょうか。時間を共有することで人やモノの魅力を感じる～それによって竹田がさらに魅力的に映っていけば幸いです。今後は子供達との企画もできればと思います。

第2回 池見 傑さん
(善米食堂)
2/25(水) 15:00-17:00
「春野菜のかき揚げ、もっちりクレープ」

一昨年の米粉講習会で作ったシュークリームが、今は人気商品として販売されています。米粉を代用品と捉えるのではなく、地産の食品として多くの場所で商品化できる取り組みにして行けたらよいと思います。



第3回 大久保 智尚さん
(直入町出身料理人)
3/1(日) 13:00-15:00
「米粉麺2種、フリット(揚げ物)」

米粉は東南アジア料理のイメージがあり、今回はいざ日本でどう家庭に定着させるか？という挑戦にもなり、自分にとっても有意義な機会となりました。さあ皆さん、どうぞ家で活用してみてくださいか？今後も竹田に関われたらと思います。

第4回 松竹 祐介さん
(Bistro & Cucina Champi)
3/4(水) 11:30-13:30
「ラザーニャ」

初めての料理講師でしたが、当日は逆に料理講習に慣れている生徒さん方に囲まれ、楽しく講師を務めさせていただきました。米粉と言う食材の再認識も含め、今後も第2回、3回…とやっていければさらに食育につながる活動だと思っています。

第5回 西田 稔彦さん
(cafe grandpa)
3/15(日) 11:00-13:00
「ガレット」

Grandpa(グランパ)でも定期的に竹田の食と文化をテーマにワークショップを展開する中で、竹田の食材の美味しさと伝統により引き継がれてきた食文化の奥深さを感じています。今回は街の人と食材、さらに各店舗の料理人との繋がりもでき、いい機会でした。食は人を繋げる力も持っています。これからも食と人との繋がりを通して、竹田の街の豊かさを広げていければと思います。



伝えあい・学びあい・育ちあい

今月の学び舎 玉来保育園

玉来保育園は、昭和27年創設、62年の歴史を持つ保育園です。「おはようございます」「よろしくお願いします」「行ってらっしゃい」こんな挨拶から一日が始まります。

園の周りは、スーパーなどが建ち並び賑やかな所ですが、一歩園内に入ると大きな銀杏の木があり、緑に囲まれた広い園庭には、「元氣いっぱい」に遊ぶ子どもたちの声が響いています。

一年を通していろいろな体験をします。春は、花まつり。お釈迦様の生誕を、お花や甘茶を捧げお祝いします。また、春を見つけない園外散歩もたくさん行きます。



↑花まつり

夏は、プール遊びや泥んこ遊びなど夏の遊びを思う存分楽しみ、開放感を味わいます。ソーマン流しも子どもたちの楽しみの一つです。7月には夕涼み会があり、盆踊りやお楽しみ会、花火大会などで賑わいます。

秋は、運動会や親子バス遠足。運動会では、子どもたち一人ひとりの力が十分に発揮できるよう考えています。

冬は、御正忌やお餅つき、2月には園生活の集大成として発表会があります。おうちで家族の前で歌ったり踊ったりしているような、温かい雰囲気の中で発表会です。毎年たくさんの方が温かい拍手で声援してくれます。



↑ソーマン流し



↑発表会

食育にも力を入れており、お芋や野菜を植えて成長を観察し、収穫した野菜はクッキングをしたり、給食に使ったりしてみんなでいただきます。

また、老人ホーム南山荘やグループホーム夢苞、事業所などを訪問し、地域との交流も大切にしていきます。

これからも、豊かな人間性を持った、優しく思いやりのある子ども、感謝する心を持った子どもの育成を目指し、笑顔を忘れず共に成長し合い、日々保育に努めていきたいと思えます。子どもたちの明るい未来を願って。

(甲斐 弘美)

「まるごと博物館」

114

この「まるごと博物館」で、貴重な先人たちの足跡をそれぞれの地区ごとに執筆者を選任していただき、非力ながら記録に残す作業を進めてまいりました。市民の皆様方のお励ましをいただきながら昨年100号を越え、今年で早や10周年を迎えました。

すでに市報で紹介していたいただきましたが、活用しやすく企画編集をして「文化財を応援する会」や市の御支援をいただき製本して、市内各小・中学校や公民館、分館、支所等へお届けしたところです。

2月10日、新たな気持ちで取り組むにあたり市総務課と連携して執筆者を選任。年間テーマ「地域に伝わる文化(人物、文化財、伝統行事等)」として、執筆ローテーションを決定し、意見交換を行って27年度を迎えました。

近年、歴史を掘りおこす数々の動きの中で近くには、兵庫県三木市と大阪府茨木市、そして石川県金沢市との交流が緒に就きはじめている姿があります。まるで「原点に帰れ」と背中をおされているようです。この山深き里で、合併10周年の節目にあたり、ふるさと竹田の歴史の深さを改めて感じさせます。

「まるごと博物館の公園づくり」への第一歩

「まるごと博物館の公園づくり」と称し、ふるさと竹田の活性化を促進することは、心の豊かさ」を創生するに違いありません。

この行政の動きを「竹やぶ」にするのか「竹林」にするのかは、ふるさとに住む我々市民の姿勢にあるでしょう。さらなる一体感を構築し「温故創生」(※)を前進させたいものです。

また、2月13日には文禄昭和、平成の時代にわたって、再なる「黒松」にまつわる三木市からの来訪がありました。あたかも、中川秀成公の「理想郷づくり」について、今再考をうながされているかのようでした。

期せずして、「オカノミクス」(登城口木製階段設置、ミニバスの運行、休憩所設置(二の丸)は、「城跡・城下」に、これまでに発想のなかった取り組みです。……つまり、市民と行政の協働作業による「まるごと博物館の公園づくり」、その第一歩につながるのです。(歴史と自然のネットワーク・仲村睦雄)

※「昔のことを知り、新しいことを作り出す」という、筆者による造語。



高橋周平さんを「竹田市東京事務所特派員」に任命

地域おこし協力隊の高橋周平さんが任務を終え、東京に帰京し、早稲田大学大学院に進学することになりました。

3月19日、市は帰京する高橋さんに「竹田市東京事務所特派員」及び「竹田市移住コンシェルジュ」を委嘱しました。

「移住の仕事に関わることができて、いい経験になりました。気持ちは、農村回帰推進室 東京分室、のつもりで東京でも頑張ります。1年間ありがとうございました」

新刊のご案内

【一般の本】

- ・西太后秘録 上・下巻(講談社) ユン・チアン
- ・火星に住むつもりかい? (光文社) 伊坂幸太郎
- ・火花(文藝春秋) 又吉 直樹
- ・ブラックオアホワイト(新潮社) 浅田 次郎
- ・日本の大和言葉を美しく話す(東邦出版) 高橋こうじ
- ・ぼくの住まい論(新潮社) 内田 樹
- ・和食ことわざ事典(東京堂出版) 永山 久夫
- ・柚木沙弥郎92年のかたち(グラフィック社) 柚木沙弥郎
- ・日本一周3016湯(幻冬舎) 高橋 一喜

【子どもの本】

- ・ほこほこのがっこう(小学館) ザ・キャビンカンパニー
 - ・ランドセルがやってきた(徳間書店) 村上 康成
 - ・サムとディブ、あなをほる(あすなる書房) ジョン・クラッセン
 - ・動物と話せる少女リリアーネ10(学研教育出版) タニヤ・シュテーブナー
 - ・ティモシーとサラ ちいさなとしょかん(ポプラ社) 芭蕉みどり
 - ・トラネコとクロネコ(鈴木出版) 宮西 達也
 - ・みんなそれぞれ(PHP研究所) tuperatupera
- 他 60冊ほど入りました

- ゴールデンウィーク期間は5月4日(月・祝)が休館となります。
- 5月5日(火・祝) 10:30~こどもの日のおはなし会を開催します。
- 4月29日(水・祝)・5月3日(日・祝)・5日・6日(水・振休)はぜひ図書館にお出かけください。



一般の本 「月曜日の詩集」

高田敏子著(日本図書センター)

昭和37年に発行された高田敏子の第三詩集「月曜日の詩集」初版本を底本として、仮名づかい、送り仮名を底本通りにデザインを模した装丁で再刊された一冊です。「おかあさーん」と呼ぶ声に思わず振り向いてしまうのは私だけではないだろう……。

やさしい母の愛と美しい詩人の心に触れてください。



子どもの本

「ドキドキ新学期」

はやみね かおる(講談社)

毎月読みたい、季節にぴったりの童話たちシリーズ「おはなし12か月」4月のおはなしは「ドキドキ新学期」。3年生の新学期を迎えたタケシ。平凡で何事にも自信の持てないタケシは天才の妹春が作ってくれたタイムマシンで1年生の新学期にタイムスリップして自信を取り戻すが……。最後に4月の豆知識が載っています。

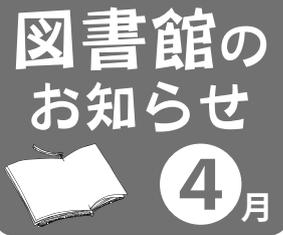


今月の読み聞かせ



- ブックスタート 4月15日(水) 13:30~(竹田市総合社会福祉センター)
- おはなしのへや 毎週火曜日 10:30~11:00(竹田市立図書館えほんのへや)

※おはなしルームは4月はお休みです。5月からのスタートとなります。



休館日カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 (休)
5 (休)	6 (休)	7	8	9	10	11 (休)
12 (休)	13 (休)	14	15	16	17	18 (休)
19 (休)	20 (休)	21	22	23	24	25 (休)
26 (休)	27 (休)	28	29	30		

(アミ)が図書館の休館日
 (休) = 荻図書館 (休) = 久住図書館
 (休) = 直入図書館

■竹田市立図書館

TEL・FAX 63-1048

■荻図書館(荻駅交流館図書室)

TEL・FAX 68-2200

■久住図書館

TEL 76-0717・FAX 76-0724

■直入図書館

TEL 75-2240・FAX 75-2231

「竹田暮らし」を誇りに

暮らしと伝統とのコミュニケーションを図る
「たけた見本市」が開催されました



↑木彫家・丸尾康弘さんと、アレックス・カーさん(写真左から)



↑長谷川絢さん(竹工芸家)と「aeru」の矢島里佳社長(写真左から)

総務省の「平成26年度過疎地域等自立活性化推進交付金事業」を活用して行われた「たけた見本市」が3月7日・8日、城下町寺町で開催されました。

「見本市」会場には、城下町を中心に集積されつつある伝統の「技」にスポットを当て、竹田に移住してきた作家たちの竹工芸、藍染め、陶芸等の作品を数多く展示。期間中、市内外から訪れた来客で賑わいました。

地域に息づく伝統から紡ぎだされる営みは「竹田ならではの暮らし」として、今後も新たな価値の創造につながっていくとでしよう。

7日、特別講演会が光西寺で



↑生活空間として設えられた「傾く家」で開かれた見本市展示場(美術ユニット・オレクトロニカ)

開催されました。第1部「aeru」と竹田が出会ったら」をテーマに、株式会社和える代表取締役矢島里佳さんが、竹田の竹工芸家・長谷川絢さんと共同で開発した『大分県から 竹細工のベツドメリー』の取り組み等について発表しました。

第2部は、竹田市アート・レジデンス「aeru」のアドバイザーであるアレックス・カーさんが「作る人は竹田を目指す」をテーマに、鋭い視点から多くの作家が創作の場として選んでいる竹田の潜在能力、今後の発展性について、ご自身が撮りためた竹田の写真を交えながら解説しました。

「ガラス」の中の小宇宙

植栽ライブに会場の視線が釘付け

多くの来場者が詰めかけた会場(光西寺本堂) →

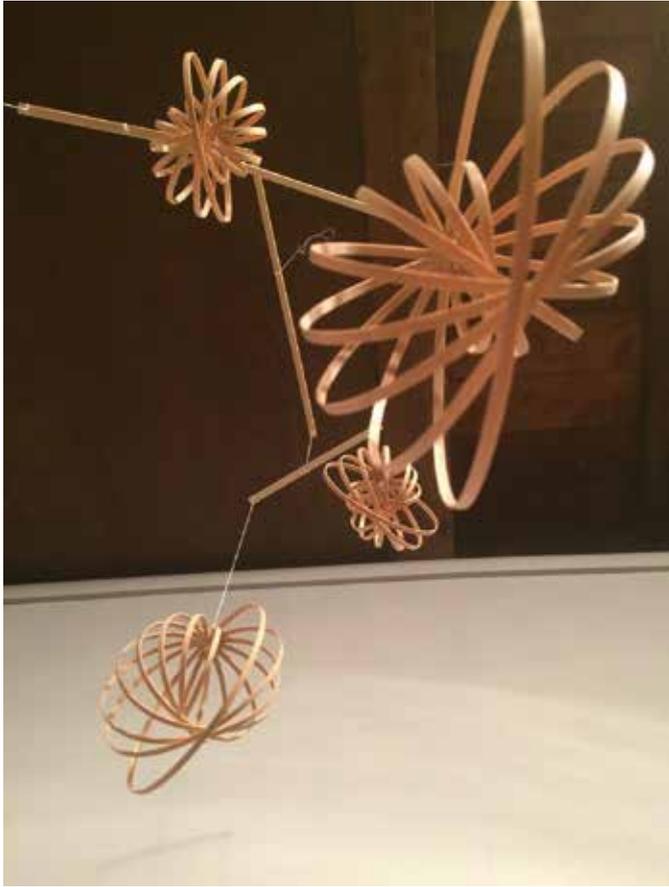


「たけた見本市」特別講演会第3部で、村瀬貴昭さん(Re: planter)の「Live-planting」(公開植栽)が行われました。

村瀬さんの作品は、船舶照明の電球の中に植栽が施されており、LEDの電球に明かりを灯すと、美しいガラスの箱庭が浮かび上がります。村瀬さんが活動する京都では、路地が細く家が密集しており、暗い店の中で植物を長持ちさせようとする工夫から生みだされました。この日、岡城やその周辺で採取した植物を材料にしたアートパフォーマンスを披露し、観衆から大きな拍手が送られました。



↑植栽家・村瀬貴昭さん



↑竹細工のベッドメリー。この作品は、ベッドから赤ちゃんが見上げても、大人が横から見ても楽しめるようなデザイン

「アエル」のトリボで開発 竹細工のベッドメリー



子どもたちの日用品を全国の職人とともに作る「株式会社和える(aeru)」とのご縁、また、総務省「地域おこし協力隊」の中から、竹工芸家・長谷川絢さんにご協力をいただき、『大分県から 竹細工のベッドメリー』の開発を昨年秋より進めてきました。そして3月6日、試作品の完成披露式が市本庁舎で行われました。

この作品は、8枚の竹で直径4cmから12cmの輪を作り、丸い球体のように仕上げ、3つもしくは5つを天秤のように組み合わせた作りとなっています。

代表取締役の矢島里佳さんは「竹は経年変化によって、年々いい色合いに変わっていきます。時間が織りなす魅力を家族一緒に楽しんでください」と話しています。

長谷川さんは「この商品が竹田という場所を多くの人に知ってもらうきっかけとなり、竹田の竹産業の拡大につながってほしいと思います」と感想を述べました。今年6月頃発売予定。

竹田で生まれた「アート作品」

作品名『岡城』。
まるで小宇宙のような美しい植栽。
「コケなどは普段、足元などにある。視線の高さにあることで、形や色など、いろんなことに気付く。季節の移り変わりなど、身近に感じていただければと思います」と村瀬さん。





郷土の植物

(312)

阿孫 久見

第121回

アセビ(ツツジ科)

山地の日当たりのいい林縁や草地に生育する高さ5メートルほどの有毒の常緑低木です。樹形は曲線状になった幹が数本株立ちします。樹皮は灰褐色で皮目は縦に裂け目が入り、多少ねじれています。

互生で上半部に低い鋸歯がある葉は枝先に集まってつきます。形は長楕円形で基部はくさび状で、長さ10センチ、幅が3センチほどです。葉質は厚い革質で表面は濃緑で光沢があり、裏面は淡緑色です。また凸状の主脈が目立ちます。早春の頃、枝先に円錐花序

をつけ、白色の径6ミリほどの浅く反り返って5裂する細い壺形の花を多数下向きに咲かせます。

和名の由来は「足しびれ」、「汗斑」、「爆ぜ実」から、それぞれ転じたという諸説がありますが、普通は有毒植物であることから馬酔木の名で呼ばれています。

竹田では里山から標高の高い山地まで広く分布していますが、くじゅう山系では特に個体が多く観察されます。花期は3月から4月です。

人口のうごき

(前月比)

人口	23,710	人(-83人)
男性	11,039	人(-38人)
女性	12,671	人(-45人)
世帯数	10,547	世帯(-21世帯)
住民基本台帳登録人数		
(平成27年3月1日現在)		



アッパレ! 100歳
いつまでもお元気で!

大正4年3月28日生まれ

さとう たかし

佐藤 孝志さん (直入・山脇)

ディサービスのみなさんとお会いすることが今いちばんの楽しみ! 長生きの秘訣は、好き嫌いなく何でも食べることです。